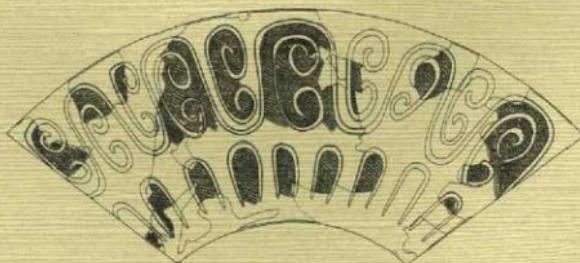
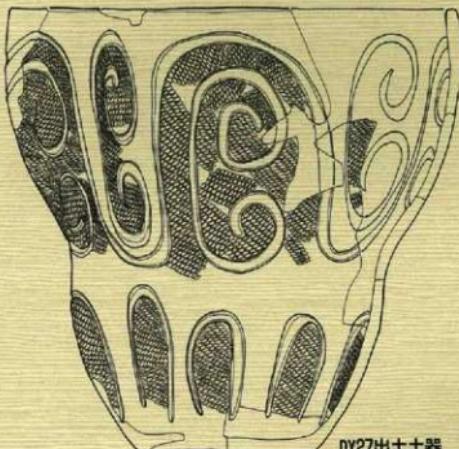


K- 582

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第91集

花沢A遺跡

発掘調査報告書



2007

米沢市教育委員会

花沢A遺跡

発掘調査報告書

2007

米沢市教育委員会

序 文

本報告書は、集合住宅にかかる受託事業として、米沢市教育委員会が実施した「花沢A遺跡」の発掘調査報告書です。

遺跡は、奥羽本線米沢駅の西方約700メートルにある米沢市立第一中学校の北方に位置し、縄文時代中期末葉から縄文時代後期を中心とする遺跡として、すでに登録されています。

この度の発掘調査では、竪穴住居跡1棟をはじめ埋設土器や石剣の一部が出土しました。

竪穴住居跡の炉は、土器埋設石組複式炉と呼ばれるもので、縄文時代中期末葉を代表する遺構であります。

今回の調査で得られた成果は、縄文時代を研究する資料として、末永く活用する所存です。また、本書が文化財保護の啓発や教育活動の一環として役立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたり、格段のご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室、ご協力いただきましたライフステージ東北株式会社並びに地元関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

2007年3月

米沢市教育委員会

教育長 外 田 忠 雄

例　　言

1 本報告書は、集合住宅工事に伴う緊急発掘調査として、米沢市教育委員会が実施した花沢A遺跡発掘調査報告書である。

2 調査は、米沢市教育委員会が主体となって、ライフステージ東北株式会社との受託事業として実施したものであり、期間は平成18年5月31日～同年6月30日である。

調査対象面積は1,632.4m²。調査面積は416m²であった。

3 調査体制は下記の通りである。

調査主体 米沢市教育委員会

調査総括 村野隆男（教育管理部文化課長）

調査担当 手塚 孝（教育管理部文化課文化財主査）

調査主任 菊地政信（教育管理部文化課文化財担当主査）

作業参加者 近野慶子 佐藤守男 新藤伊勢夫

丸山忠俊 渡辺 悅 永井ゆりこ

事務局 佐藤孝市（文化課長補佐）

青木千尋（文化課文化財担当主事）

調査指導 文化庁 山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室

調査協力 ライフステージ東北株式会社

4 掘図の縮尺は、スケールで各図に示した。

5 出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市花沢一丁目4-21）に一括保管している。

6 本報告書で使用した略号は、HY—堅穴住居跡、DY—土壙、MY—埋設土器、BY—掘立柱建物跡、AZ—土器、BZ—石器、CZ—碟器、EZ—石製品、FZ—土製品を表示している。

7 本書の作成は、菊地が中心となり近野慶子が補佐し、全体的には手塚が総括した。

本文目次

| | |
|------------|----|
| 序文 | |
| 例言 | |
| I 遺跡の概要 | 1 |
| II 調査の経過 | 1 |
| III 検出遺構 | 4 |
| (1) 堅穴住居跡 | 4 |
| (2) 掘立柱建物跡 | 4 |
| (3) 土 壤 | 5 |
| (4) 埋設土器 | 6 |
| IV 出土遺物 | 18 |
| (1) 土 器 | 18 |
| (2) 石 器 | 19 |
| (3) 土製品 | 20 |
| (4) 石製品 | 20 |
| (5) 磁 器 | 20 |
| V まとめ | 55 |
| 〈参考資料〉 | 56 |
| 参考文献 | 61 |
| 報告書抄録 | 62 |

挿 図 目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| 第1図 花沢A遺跡位置図 | 2 |
| 第2図 花沢A遺跡調査範囲図 | 3 |
| 第3図 花沢A遺跡遺構全体図（1） | 7 |
| 第4図 花沢A遺跡HY1平面図（2） | 8 |
| 第5図 花沢A遺跡IY1平面図（3） | 9 |
| 第6図 花沢A遺跡土壤形態分類図 | 10 |
| 第7図 花沢A遺跡BY1平面図（4） | 13 |
| 第8図 花沢A遺跡NW区遺構平面図（5） | 14 |
| 第9図 花沢A遺跡NW区遺構平面図（6） | 15 |
| 第10図 花沢A遺跡NE区遺構平面図（7） | 16 |
| 第11図 花沢A遺跡SW区遺構平面図（8） | 17 |
| 第12図 花沢A遺跡出土繰器分類図 | 21 |
| 第13図 花沢A遺跡出土土器実測図（1） | 25 |
| 第14図 花沢A遺跡出土土器実測図（2） | 26 |
| 第15図 花沢A遺跡出土土器実測図（3） | 27 |
| 第16図 花沢A遺跡出土土器実測図（4） | 28 |
| 第17図 花沢A遺跡出土土器実測図（5） | 29 |
| 第18図 花沢A遺跡出土土器実測図（6） | 30 |
| 第19図 花沢A遺跡出土土器実測図（7） | 31 |
| 第20図 花沢A遺跡出土土器実測図（8） | 32 |
| 第21図 花沢A遺跡出土土器実測図、拓影図（9） | 33 |
| 第22図 花沢A遺跡出土土器実測図、展開図（10） | 34 |
| 第23図 花沢A遺跡出土土器実測図、展開図（11） | 35 |
| 第24図 花沢A遺跡出土土器実測図、展開図（12） | 36 |
| 第25図 花沢A遺跡出土土器展開図、拓影図（13） | 37 |
| 第26図 花沢A遺跡出土土器実測図（14） | 38 |
| 第27図 花沢A遺跡出土土器拓影図（15） | 39 |
| 第28図 花沢A遺跡出土土器拓影図（16） | 40 |
| 第29図 花沢A遺跡出土土器拓影図（17） | 41 |
| 第30図 花沢A遺跡出土土器拓影図（18） | 42 |
| 第31図 花沢A遺跡出土土器拓影図（19） | 43 |
| 第32図 花沢A遺跡出土土器拓影図（20） | 44 |

| | | |
|------|--------------------------------|----|
| 第33図 | 花沢A遺跡出土土器拓影図(21) | 45 |
| 第34図 | 花沢A遺跡出土土器拓影図(22) | 46 |
| 第35図 | 花沢A遺跡出土土器拓影図(23) | 47 |
| 第36図 | 花沢A遺跡出土土器拓影図(24) | 48 |
| 第37図 | 花沢A遺跡出土土器拓影図(25) | 49 |
| 第38図 | 花沢A遺跡出土石器実測図(26) | 50 |
| 第39図 | 花沢A遺跡出土石器、石製品実測図、円盤形土製品拓影図(27) | 51 |
| 第40図 | 花沢A遺跡出土円盤形土製品拓影図(28) | 52 |
| 第41図 | 花沢A遺跡出土敲石実測図(29) | 53 |
| 第42図 | 花沢A遺跡出土石皿、石棒実測図(30) | 54 |
| 第43図 | 縄文時代中期中葉～末葉の竪穴住居跡平面図 | 56 |
| 第44図 | 縄文時代中期末葉の竪穴住居跡平面図 | 57 |
| 第45図 | 縄文時代中期末葉の土器群 | 58 |
| 第46図 | 縄文時代中期中葉～末葉の土器群 | 59 |
| 第47図 | 土器埋設石組複式炉平面図 | 60 |

付表目次

| | | |
|-----|--------------|----|
| 第1表 | 花沢A遺跡土壤計測表 | 11 |
| 第2表 | 花沢A遺跡柱穴計測表 | 12 |
| 第3表 | 花沢A遺跡出土土器観察表 | 22 |

図版目次

| | | |
|------|----------|------------------------|
| 第1図版 | 花沢A遺跡の発掘 | 発掘風景 |
| 第2図版 | 花沢A遺跡の発掘 | H Y 1 の調査状況 |
| 第3図版 | 花沢A遺跡の発掘 | 調査区全景 |
| 第4図版 | 花沢A遺跡の発掘 | D Y 5 、 N E 区プラン確認状況 |
| 第5図版 | 花沢A遺跡の発掘 | D Y 24 、石劍出土状況 |
| 第6図版 | 花沢A遺跡の発掘 | D Y 1 、 19 、 33 土層断面状況 |

- 第7図版 花沢A遺跡の発掘 D Y22、T Y12土層断面状況
- 第8図版 花沢A遺跡の発掘 D Y34遺物出土、T Y20土層断面状況
- 第9図版 花沢A遺跡の発掘 D Y14・T Y15土層断面状況
- 第10図版 花沢A遺跡の発掘 D Y19・32~34土層断面状況
- 第11図版 花沢A遺跡の発掘 H Y 1 東西セクション状況、土器埋設石組炉近景
- 第12図版 花沢A遺跡の発掘 H Y 1 東西セクション状況、土器埋設石組炉近景
- 第13図版 花沢A遺跡の発掘 H Y 1 全景
- 第14図版 花沢A遺跡の発掘 H Y 1 西、南側の壁立ち上がり状況
- 第15図版 花沢A遺跡の発掘 D Y27・31完掘状況
- 第16図版 花沢A遺跡の発掘 D Y 1・14完掘状況
- 第17図版 花沢A遺跡の発掘 T Y20・D Y22完掘状況
- 第18図版 花沢A遺跡の発掘 D Y 8・T Y15完掘状況
- 第19図版 花沢A遺跡の発掘 M Y 1・4 出土状況
- 第20図版 花沢A遺跡の発掘 M Y 5・11出土状況
- 第21図版 花沢A遺跡の発掘 M Y 2 出土、土層断面状況
- 第22図版 花沢A遺跡の発掘 M Y 3 出土、土層断面状況
- 第23図版 花沢A遺跡の発掘 M Y 6・10出土土層断面状況
- 第24図版 花沢A遺跡の発掘 M Y 7 A・B出土土層断面状況
- 第25図版 花沢A遺跡の発掘 M Y 9 出土土層断面状況
- 第26図版 花沢A遺跡出土復元土器（1）
- 第27図版 花沢A遺跡出土復元土器（2）
- 第28図版 花沢A遺跡出土復元土器（3）
- 第29図版 花沢A遺跡出土復元土器（4）
- 第30図版 花沢A遺跡出土復元土器（5）
- 第31図版 花沢A遺跡出土復元土器（6）
- 第32図版 花沢A遺跡出土土器（1）
- 第33図版 花沢A遺跡出土土器（2）
- 第34図版 花沢A遺跡出土土器（3）
- 第35図版 花沢A遺跡出土土器（4）
- 第36図版 花沢A遺跡出土土器、石器、石製品

I 遺跡の概要

第1図で示すように、本遺跡は奥羽本線米沢駅北西約700mの箇所に位置する縄文時代中期末葉を中心とする遺跡である。遺跡は旧羽黒川と西側の最上川（松川）に挟まれた細長い河岸段丘に立地するもので、大半が宅地になっている。

このような状況のなかで、果樹園になっている箇所を1987年（昭和62年）の10月に試掘調査を実施した結果、縄文時代早期、前期、中期、後期の土器群が出土した。遺構としては土器埋設石組複式炉を伴う竪穴住居跡2棟を確認した。この住居跡は、土器等は取り上げたがその外については埋め戻し、現況に復した。第44図が埋め戻す前に作成した平面図である。特徴は深さが1.2mであることであり、竪穴住居の本来の姿を残す遺構として注目されている。詳細は、米沢市埋蔵文化財報告書第32集（昭和63年発行）に記載してある。

II 調査の経過

今回の調査は、山形市に事務所を置くライフステージ東北株式会社が花沢A遺跡の範囲内に集合住宅の建築を計画したことを見て、2006年（平成18年）5月2日に、同社から、米沢市駅前三丁目2473-13番地に集合住宅の建設計画（1,632.4m²）に伴う発掘の届出が米沢市教育委員会文化課にあった。

これを受けて、同課調査員が同年5月2日と同月15日に試掘調査を実施したところ、表土下53cmの地点で縄文土器や土壌群及び埋設土器群を確認した。この結果から、米沢市教育委員会は調査が必要であると判断した。このため、関係者と協議を重ねた結果、記録保存を前提に緊急発掘調査を実施する方向で合意した。

発掘調査は開発側が発掘調査費の一部を負担する受託事業として契約を締結し、平成18年5月31日～同年6月30日の日程で開始することにした。

発掘調査の範囲は、第2図で示す様に建物が建築される場所でも攪乱されていない北方側を中心に重機による表土剥離から開始した。上面は碎石が約30cmの厚さに敷かれており、其の下には旧畑地と推測される黒土層、約20cmの下層に遺物が混入する包含層が確認されたので、重機による作業は黒層の直下までとした。

遺物は主に調査区の南側に集中しており、土器片が中心であり石器類は少量であった。重機による表土剥離は一日で終了した。

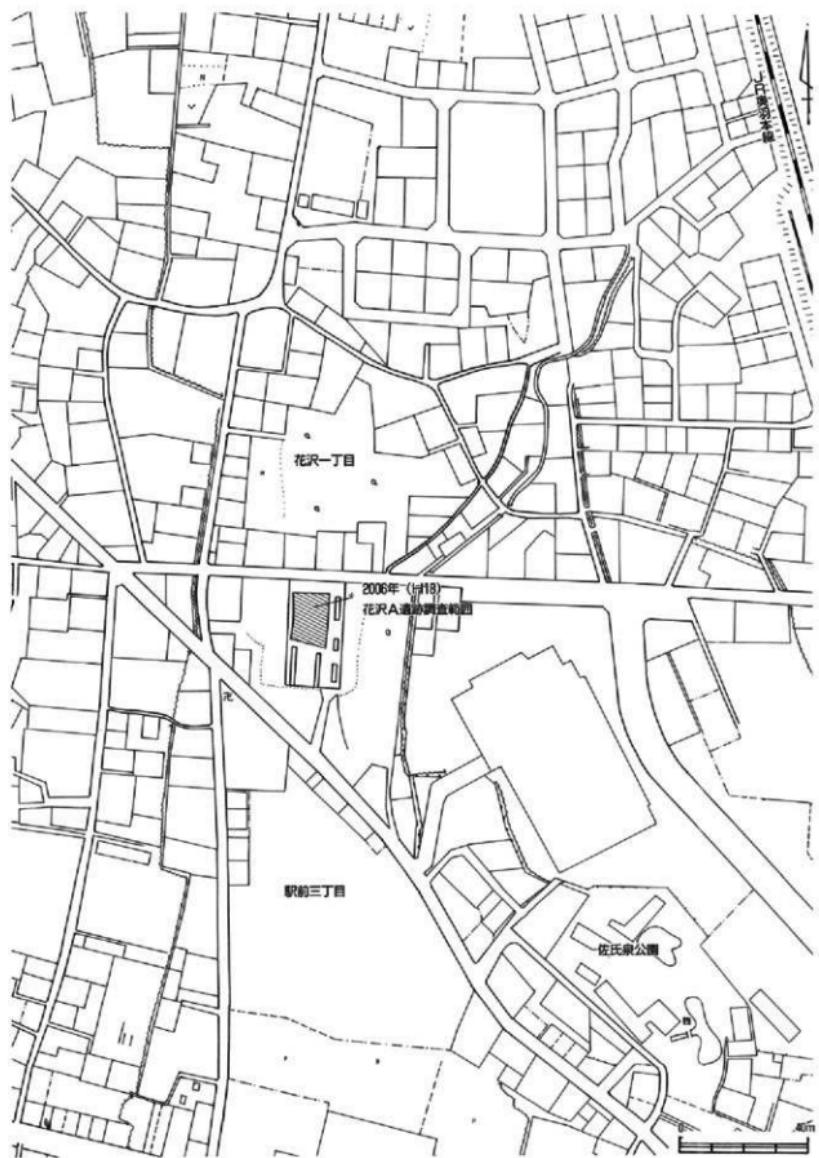
6月1日からは、作業員による面整理を開始した。土色は黒褐色土の下面に茶褐色土があり、少量の炭化物が混入する土層で、地形的には南側が高く緩やかに北側に傾斜している。

遺物の出土量は、南側が多く北西部が少量であったが、遺構に関しては北方側に集中する傾向が認められた。

遺構の確認面は、黄褐色土及び黒褐色土層であり、この層を掘り込んで埋設した土器群は総計で14基あるが、大半は口縁部が欠損していた。後世における農地としての耕作中に欠損したものと考えられる。調査は、6月28日までに遺構平面図作成を除き終了した。6月30日に現地説明を開催し、同日の夕方までにすべての工程を終了した。



第1図 花沢A遺跡位置図



第2図 花沢A遺跡調査範囲図

III 検出遺構

今回の調査区からは、縄文中期後葉～縄文後期初頭に構築された遺構群が検出され、大半は縄文中期後葉に位置する。遺構の総数は77基で、種別では竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡2棟、土壙51基、柱穴2基、埋設土器13基、ピット8基であった。

これらの遺構群について、列挙した順に述べる。土壙群については第1表、柱穴については第2表に詳細を示した。遺構群出土の遺物については、文様の判別できたものについては、実測図や拓影図及び観察表を第3表に作成したので参照願いたい。

(1) 竪穴住居跡 HY1 (第4・5図)

調査区の北西箇所から確認したもので、床面を掘り込んで拳大の石と扁平の大きめの石を組み合わせ、頂部に底部と口縁部を取り除いた土器を埋設した形態の土器埋設石組複式炉を設置した竪穴住居跡である。

長径が3.4mの円形状に掘り込んでおり、柱穴は6本確認した。入り口は直下に長円形の川原石を配した箇所の北西部が考えられる。壁の深さは平均で40～48cmあり、良好に残っていた。東西は緩やかに、南北はほぼ直角に立ち上がる壁面である。

出土遺物としては、第27図1～4、第28図1～3の土器群、第38図の4(石鎌)、5(石錐)、15(搔器)の石器群、第39図の4(石剣)の石製品がある。他に図示しなかったが、整理箱3箱の土器片が主に覆土から出土している。土器群は、沈線文による「C」字状文(第28図1～4)、隆線文の第27図2、稜帯文の同図1がある。器形は、沈線文の第28図は深鉢形土器、第27図1～3は注口土器で鉢形土器である。3には朱色の彩色が施されていた。何れも破片であり、復元は出来なかった。

これらの土器群は、縄文中期後葉期の東北南部の編年でみれば、大木10b式併行の土器群が主流であり、竪穴住居跡の年代もこの時期と考えるのが妥当である。

(2) 掘立柱建物跡 BY1・2 (第7・8図)

BY1は、今回の調査区のはば中央部に確認したもので東西に張り出す構成になっているものと判断した。柱穴は円形に掘りこまれた平面形状であり8本ある。深さは平均で80cmあり、半截したセクションで明確に柱痕跡が観察されたものが、TY23.42.49.50.52.59の6本であった。

柱痕跡は、25～30cmと想定される。床面からは炉跡は確認されていないので、集会所的な多目的機能を持つ掘立柱建物跡と考えられる。

TY37の南方部には、埋設土器MY10・16が認められた。出土状況から掘立柱建物跡と埋設土器の関係は、時間差がないものと考えられ、関連すると想定される。柱穴からの遺物は少量であり、MY6・10の土器が年代とすれば、竪穴住居跡と同年代が相当と考えられる。

BY2は、調査区の北方に確認したもので、BY1と同様な平面形状を有する。特に張り出す箇所についても、明瞭に柱痕跡が確認された。長軸方向は同様であるが、BY1よりは

小型の様相を呈している。柱穴の数は6本確認しているが、本来はBY1と同様に8本で構成するものと推測される。

西方に大型の方形状の土壙DY27がある。この土壙の底面からは、第23図の小形深鉢土器が出土している。この土器の文様からすれば、大木10式に先行する大木9式併行段階の土器である。従って床面を掘り込んで埋設したMY8をBY2の年代とすれば、DY27が埋没した後に、BY2を構築したと考えられる。

その他に、2基の柱穴がある。BY2を構成するTY17の西側に隣接するTY18とSE区の中央部東側に位置するTY39である。後者のTY39は周囲の遺構群から判断して、張り出し部の柱穴の可能性がある。

(3) 土壙 DYの略号 (第7図~11図)

調査の北側を中心に重複して確認され、平面形状や断面形態から3形態に大別した。さらに微細な形状から6形態に細別した。これらの遺構群も竪穴住居跡と同様の縄文中期後葉期の土壙群であるが、前述した様相から年代幅をもって構築されたと考えられる。

第6図は、土壙形態分類図であり、A類~C類の3類に大別され、さらに微細な形状から6形態に細別した。これらの土壙群から出土した遺物については、第1・3表に示したので参考願いたい。次に各形態別に説明を加える。

A 1類-1基-DY27 (第8図)

調査区の北西部に位置する方形の大型土壙で、南西コーナー部に重複してDY68がある。重複関係は、DY27の構築後にDY68を構築している様子が、セクション図から理解される。底面は平坦であり、竪穴状に掘り込んでいる。復元した第23図が底面に置かれた状況で出土している。土器片は140点あり、沈線文で表出した横位の「C」字状文が多く認められた。(第31図1~3)

覆土は人工堆積であり、自然礫を含む汚れた土質である。底面の土器の出土状況や覆土から判断して、方形に掘り込んだ大型の墓壙と考えられる。

A 2類-1基-DY2 (第11図)

壁が緩やかに立ち上がる大型の土壙で、調査区の南部に位置する。北側には、現代の浄化槽が埋設されており、約二分の一を完掘した。セクション図から判る様に中央部や西側にB2類の土壙が構築されている。この箇所は、微砂質土であり底面には拳大の礫が認められた。出土した土器は後から掘り込まれたB2類の土壙覆土からである。第28図5.6.7であり、変形の「C」字状文である。

本来の底面形態が明確でないので、土壙の構築目的は不明と言わざるを得ないが周囲の状況から判断して墓壙の可能性が高いと考えられる。

B 1類-7基-DY14.22.31.33.34.35.48 (第7~11図)

上部から底部にかけて壁面が広がる袋状土壙をB類とし、大型をB1類、やや小型の形態をB2類に細類した。B類の総計は16基であり、調査区北方の掘立柱建物跡に囲まれた範囲

に集中して確認された。

竪穴住居跡の東側に隣接するD Y33・34は第8図で示すセクション図から、D Y34の構築後にD Y33を構築していることが判る。D Y34出土の土器群は縄文を施した大形の粗製土器であったが、復元することは出来なかった。D Y33の土器群は、第22図1の稜帯文の土器群が主流である。文様は変形の「C」字状文が認められた。

覆土は人工堆積であり、底面近くにまとめて土器が認められた。この様な状況から土器は副葬品と考えられ、墓壙の可能性が高いと考えられる。ただし、調査区中央部西側に位置するD Y48は、後期の土器片第35図2が出土している。土壙が廃絶した後に混入したと推測される。

B 2類-9基-D Y 8.19.21.24.32.46.55.61.65 (第7~11図)

D Y46は、H Y 1の床面を掘り込んで構築した土壙であり、住居跡に付随すると考えるのが妥当である。遺物としては、第34図4・5の沈線文土器、第40図15の円盤型土製品が出土している。D Y21からは、第39図2の石鎌が覆土から出土している。また、D Y55の覆土からは石棒の破片が認められた。

B 2類はB 1類よりも浅い形態が多く認められることから、幼児用墓壙の可能性もあり、出土した土製品や石器等は副葬品と考えたい。

C 1類-11基-D Y 9.28.30.38.41.44.51.53.54.63.68 (第7図~11図)

平面形状が円形で、小規模な土壙群を本類とした。断面形態から竪穴状の土壙をC 1類、レンズ状の形態をC 2類に細類した。総計は33基で最も多く認められた土壙群である。埋設土器のMY 3とMY 5の中間に位置するD Y 1は、今回の調査区では最も南に位置する土壙であり、人口の堆積状況を示していた。小破片の土器片が89点出土している。他に円盤型土製品1点が認められた。大半の土壙覆土に遺物が混入しており、沈線や稜帯による「の」字状文系土器群である。

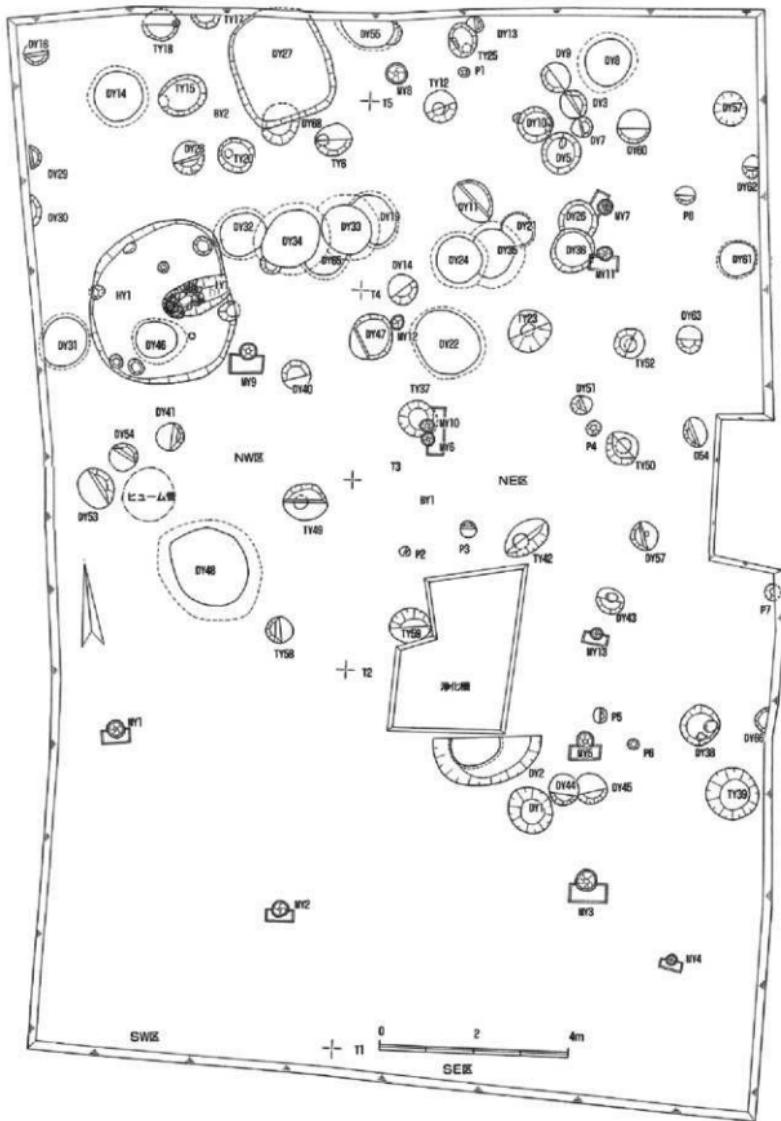
これらの土壙群の中には、D Y41のように柱穴も含まれており、掘立柱建物を構成するに至らない柱穴とすれば、単独で柱を立てるためと考えられる。墓標的なものと想定したい。ピット群についても小規模なものとして同様に考えられる。

C 2類-20基-D Y 1.3.4.5.7.10.11.13.16.26.29.36.40.43.45.47.57.60.62.64.66.67 (第7図~11図)

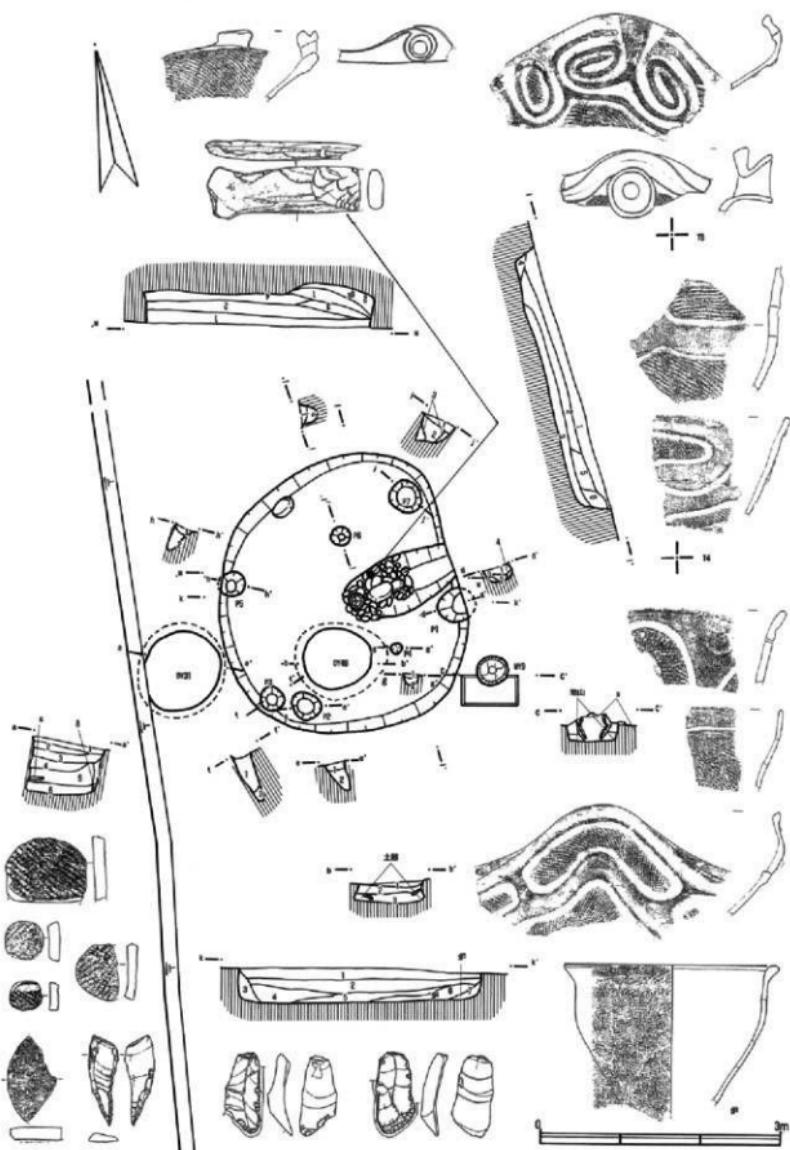
調査区の全域に認められ、遺物を含むのが多く認められた。B 2類と同様な機能が考えられる。

(4) 埋設土器-13基-MY 1~13 (第1~11図)

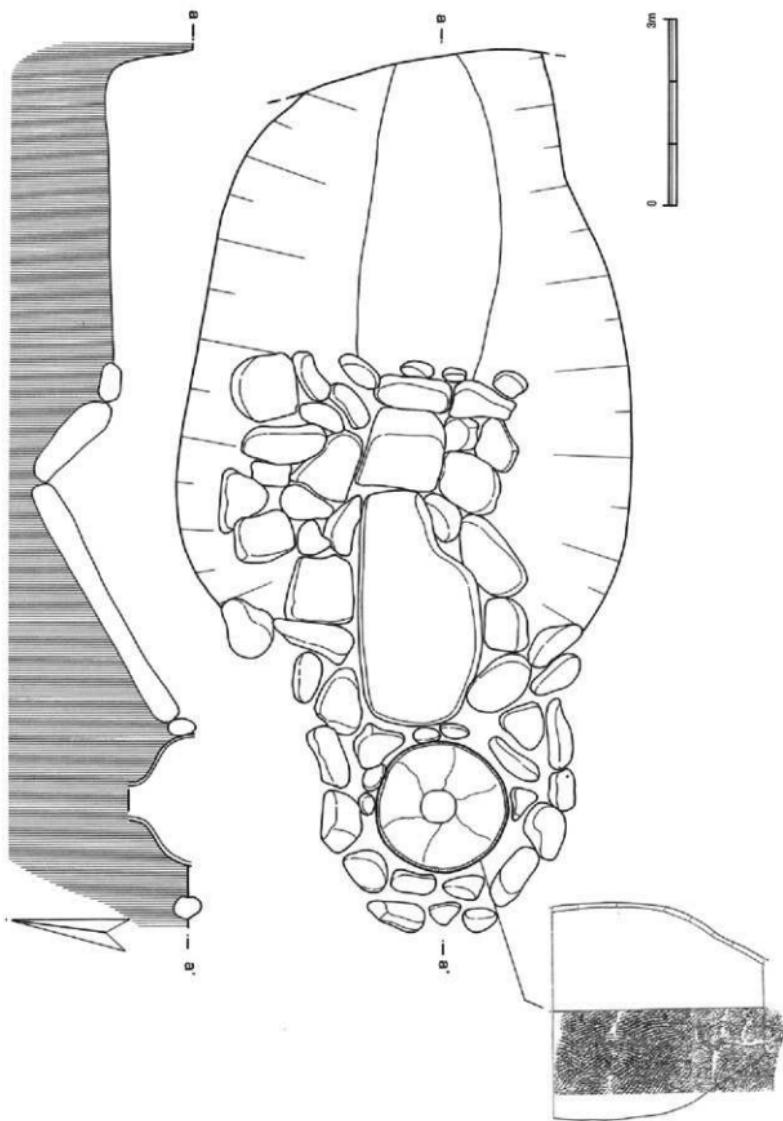
調査区の東側を中心に南北に並ぶように、5基が認められた。特にMY 7は埋設した土器の上に蓋をするように土器を逆さに配置したものであり、合わせ口の形態である。幼児用の墓制と考えられる。MY12からは、副葬品と思われる第38図22の無茎石鎌が、出土している。埋設土器の大半は、口縁部がすでに失われており、以前の畑地として耕作する際に偶然削平されたと推測される。破損面が新しいことからも、そのことが伺える。

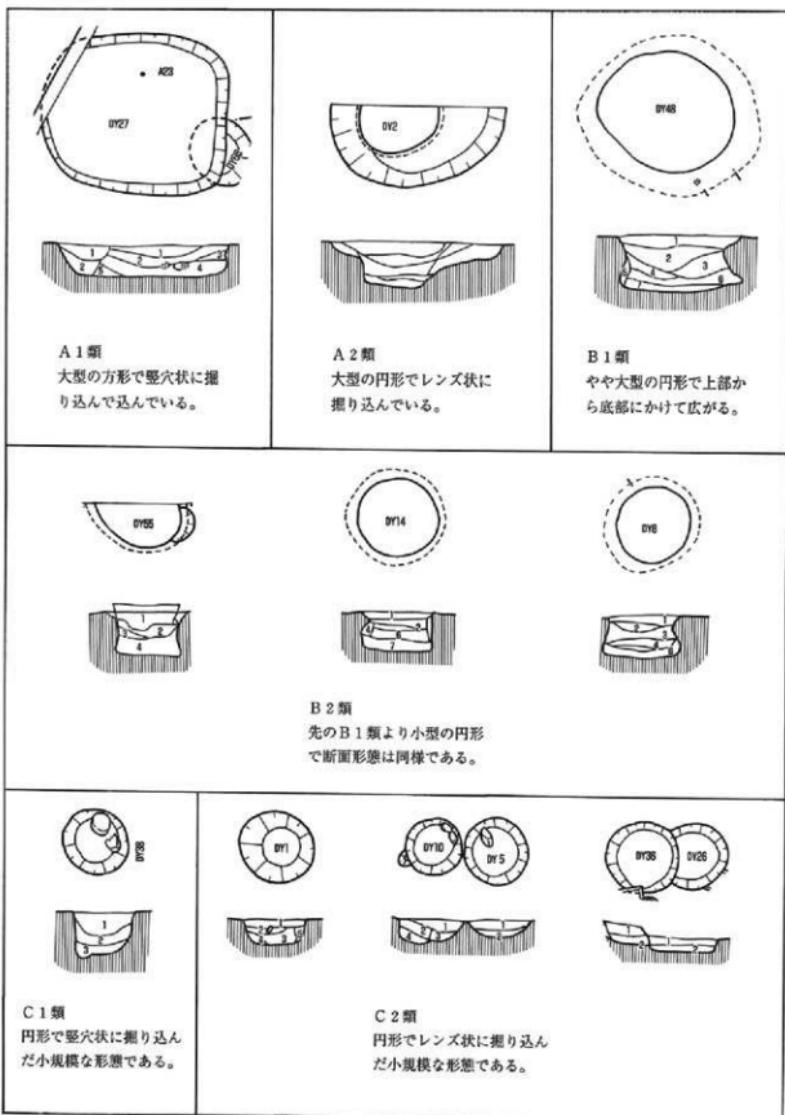


第3図 花沢A遺跡遺構全体図(1)



第5図 花沢A遺跡I Y1平面図(3)(土器埋設石組複式炉)





第6図 花沢A遺跡土壤形態分類図

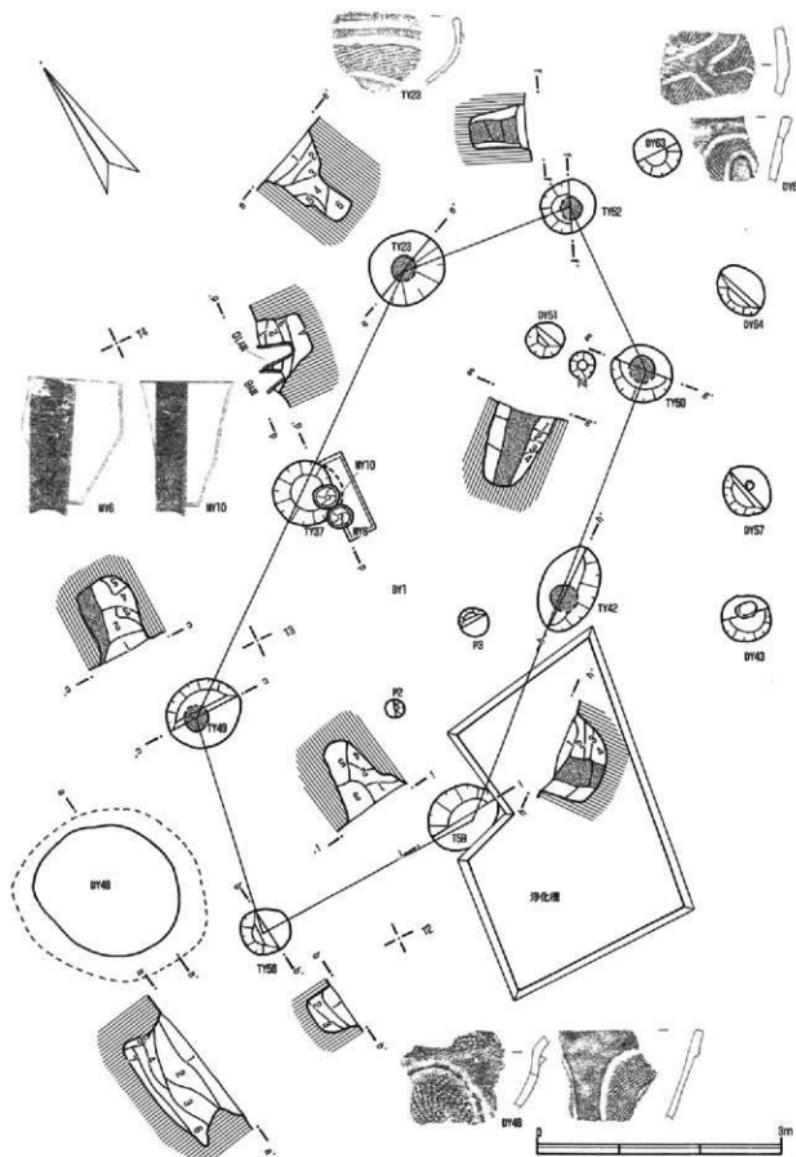
第1表 土壌計測表

| No | 遺構番号 | 形態 | 上部径(cm) | 底部径(cm) | 深さ(cm) | 地区 | 出土墳物 | 土器片数 | 拓本数 | 礪器数 |
|----|--------|------|---------|---------|--------|-----|--------------|------|-----|--------------|
| 1 | D Y 1 | C 1類 | 100 | 50 | 34 | S E | 円盤形土製品 | 89 | | |
| 2 | D Y 2 | A 2類 | 228 | 114 | 60 | S E | 第40図26円盤形土製品 | 227 | 3 | 敲石 1 |
| 3 | D Y 3 | C 2類 | 60 | 38 | 31 | N E | | | | |
| 4 | D Y 4 | C 2類 | 62 | 34 | | N E | | | | |
| 5 | D Y 5 | C 2類 | 82 | 62 | 22 | N E | | 33 | 1 | |
| 7 | D Y 7 | C 2類 | 42 | 26 | 28 | N E | | | | |
| 8 | D Y 8 | B 2類 | 94 | 124 | 56 | N E | | 41 | | |
| 9 | D Y 9 | C 1類 | 64 | 44 | 47 | N E | | 16 | 2 | |
| 10 | D Y 10 | C 2類 | 72 | 48 | 30 | N E | | 16 | | |
| 11 | D Y 11 | C 2類 | 104 | 80 | 13 | N E | | 22 | | |
| 13 | D Y 13 | C 2類 | 36 | 18 | 23 | N E | | | | |
| 14 | D Y 14 | B 2類 | 100 | 128 | 50 | N W | | 53 | 6 | |
| 16 | D Y 16 | C 2類 | 50 | 34 | 13 | N W | | 3 | | |
| 19 | D Y 19 | B 2類 | 110 | 128 | 28 | N W | | 111 | 4 | |
| 21 | D Y 21 | B 2類 | 70 | 80 | 16 | N E | 第38図 2 石歯 | 2 | | |
| 22 | D Y 22 | B 1類 | 144 | 162 | 58 | N E | | 196 | 5 | 敲石 3 |
| 24 | D Y 24 | B 2類 | 100 | 124 | 62 | N E | | 146 | 5 | 石皿 1 敲石 2 |
| 26 | D Y 26 | C 2類 | 84 | 62 | 24 | N E | | 17 | | |
| 27 | D Y 27 | A 1類 | 238×200 | | 40 | N W | | 140 | 4 | |
| 28 | D Y 28 | C 1類 | 62 | 30 | 34 | N W | 第39図 2 磨製石斧 | 3 | | |
| 29 | D Y 29 | C 2類 | 50 | 30 | 23 | N W | | 4 | | |
| 30 | D Y 30 | C 1類 | 68 | 40 | 45 | N W | | 19 | 2 | |
| 31 | D Y 31 | B 2類 | 100 | 120 | 50 | N W | | 81 | 1 | |
| 32 | D Y 32 | B 2類 | 100 | 140 | 40 | N E | 搔器 | 55 | 5 | |
| 33 | D Y 33 | B 1類 | 110 | 150 | 84 | N W | | 364 | 5 | 敲石 2 |
| 34 | D Y 34 | B 1類 | 132 | 162 | 62 | N W | | 30 | | |
| 35 | D Y 35 | B 1類 | 104 | 140 | 42 | N E | | 11 | | |
| 36 | D Y 36 | C 2類 | 94 | 72 | 18 | N E | | | | |
| 38 | D Y 38 | C 1類 | 90 | 58 | 58 | S E | | 74 | 5 | 石皿 2 |
| 40 | D Y 40 | C 2類 | 60 | 38 | | N W | | | | |
| 41 | D Y 41 | C 1類 | 58 | 26 | 38 | N W | | 52 | 2 | 敲石 2 |
| 43 | D Y 43 | C 2類 | 62 | 44 | 15 | S E | | 1 | | 石皿 |
| 44 | D Y 44 | C 1類 | 60 | 38 | 44 | S E | | 47 | 3 | |
| 45 | D Y 45 | C 2類 | 64 | 42 | 26 | S E | | | | |
| 46 | D Y 46 | B 2類 | 88 | 118 | 28 | N W | 第40図15円盤形土製品 | 44 | 2 | 敲石 1 |

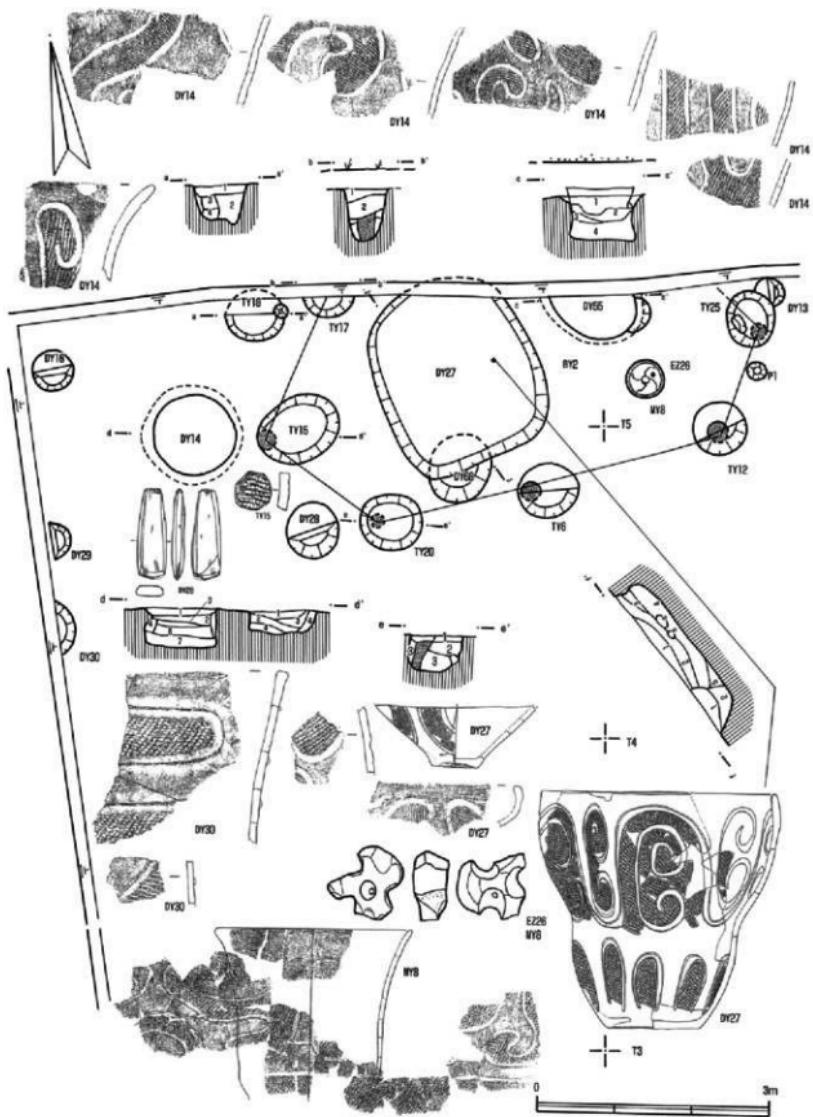
| | | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-----|-----|----|-----|--|-----|---|--------------|
| 47 | D Y47 | C 2 類 | 96 | 72 | 36 | N E | | 10 | | |
| 48 | D Y48 | B 1 類 | 164 | 244 | 76 | S W | | 289 | 2 | 鐵石 2 |
| 51 | D Y51 | C 1 類 | 40 | 20 | 56 | N E | | 14 | 2 | 鐵石 1 |
| 53 | D Y53 | C 1 類 | 88 | 42 | | S W | | | | |
| 54 | D Y54 | C 1 類 | 60 | 36 | 95 | N W | | | | |
| 55 | D Y55 | B 2 類 | 106 | 132 | 64 | N W | | 16 | | 石棒 1 鐵石 1 |
| 57 | D Y57 | C 2 類 | 62 | 38 | 30 | S E | | 5 | | |
| 60 | D Y60 | C 2 類 | 70 | 54 | 23 | N E | | 9 | | |
| 61 | D Y61 | B 2 類 | 72 | 84 | 27 | N E | | 7 | | |
| 62 | D Y62 | C 2 類 | 40 | 24 | 18 | N E | | 2 | | |
| 63 | D Y63 | C 1 類 | 56 | 28 | 38 | N E | | 4 | | |
| 64 | D Y64 | C 2 類 | 66 | 36 | 30 | N E | | | | |
| 65 | D Y65 | B 2 類 | 90 | 106 | 33 | N W | | | | |
| 66 | D Y66 | C 2 類 | 56 | 38 | | S E | | | | |
| 67 | D Y67 | C 2 類 | 70 | | | N E | | | | |
| 68 | D Y68 | C 1 類 | 76 | 42 | 38 | N W | | | | |

第2表 柱穴計測表

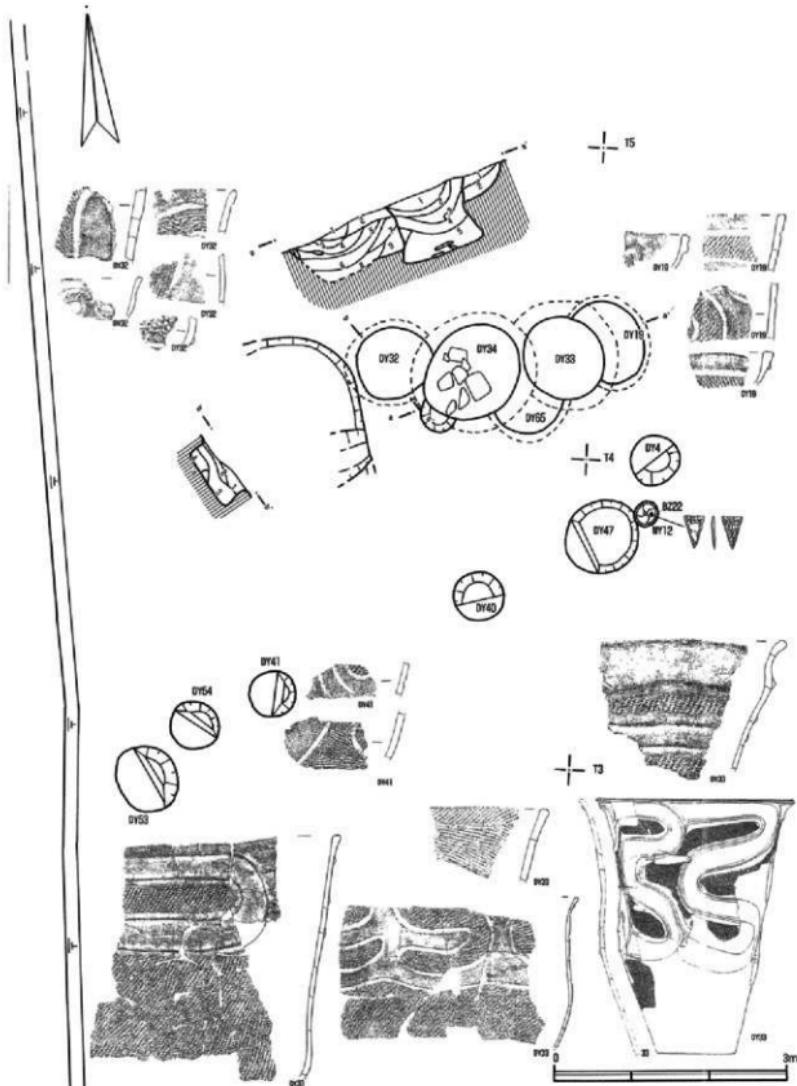
| No | 遺構番号 | B Y番号 | 上部径(cm) | 底部径(cm) | 深さ(cm) | 地区 | 出土遺物 | 土器片数 | 拓本数 | 礪器数 |
|----|-------|-------|---------|---------|--------|-----|--------------|------|-----|------|
| 1 | T Y 6 | B Y2 | 82 | 48 | 75 | N W | | | | |
| 2 | T Y12 | B Y2 | 70 | 38 | 49 | N E | | | | |
| 3 | T Y15 | B Y2 | 108 | 76 | 28 | N W | 第40図14円盤形土製品 | 22 | | |
| 4 | T Y17 | B Y2 | 68 | 38 | 66 | N W | | | | |
| 5 | T Y18 | | 74 | 56 | 52 | N W | | 8 | | |
| 6 | T Y20 | B Y2 | 80 | 58 | 46 | N W | | 15 | | |
| 7 | T Y23 | B Y1 | 95 | 30 | 100 | N E | | 11 | 1 | |
| 8 | T Y25 | B Y2 | 72 | 56 | 20 | N E | | | | |
| 9 | T Y37 | B Y1 | 78 | 40 | 62 | N E | | | | |
| 10 | T Y39 | | 106 | 62 | 44 | S E | | | | |
| 11 | T Y42 | B Y1 | 110 | 92 | 60 | S E | | | | |
| 12 | T Y49 | B Y1 | 96 | 68 | 94 | S W | | | | |
| 13 | T Y50 | B Y1 | 74 | 58 | 98 | N E | | 3 | | |
| 14 | T Y52 | B Y1 | 64 | 36 | 68 | N E | | 6 | | |
| 15 | T Y58 | B Y1 | 56 | 30 | 42 | S W | | 9 | | |
| 16 | T Y59 | B Y1 | 90 | 56 | 94 | S E | | | | 石皿 1 |



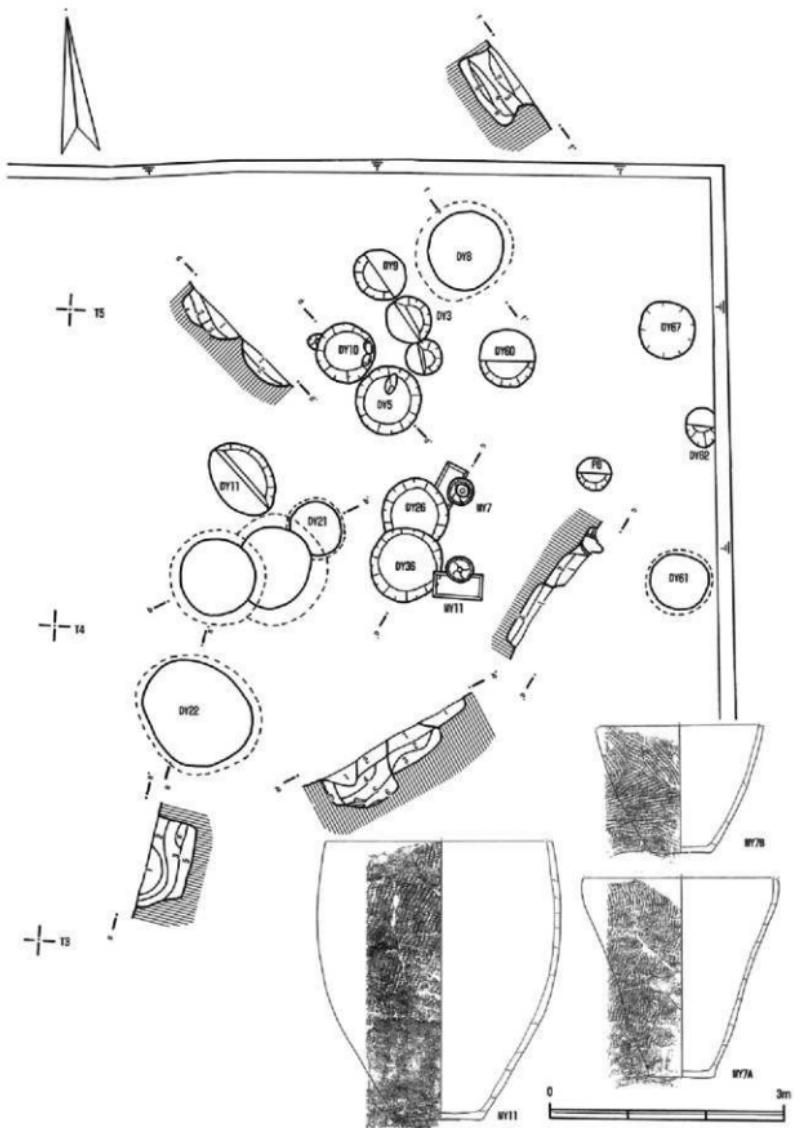
第7図 花沢A遺跡BY1平面図(4)



第8図 花沢A遺跡NW区遺構平面図(5)

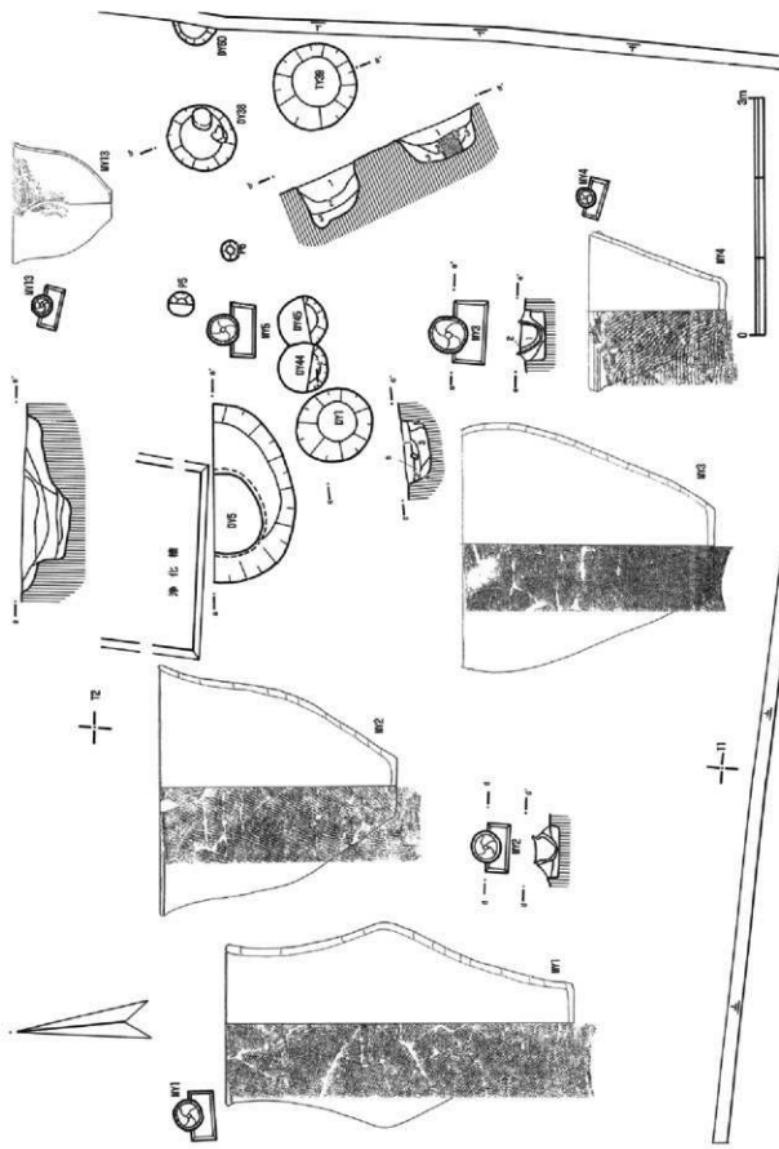


第9図 花沢A遺跡NW区遺構平面図（6）



第10図 花沢A遺跡NE区遺構平面図(7)

第11圖 花崗岩造跡SW區造構平面圖 (8)



IV 出土遺物

竪穴住居跡や土壤群及び調査区南側の包含層から出土した。土器片が最も多く15,218点を数え、次に石器類が239点、礫器72点、円盤形土製品51点、埋設土器14点、一括土器8点、石製品3点、土製品2点、復元可能土器5点であった。これらの遺物について、実測図や拓影図、写真図版を必要と認識したものを選出して図面等を作成した。

(1) 土器

実測図及び拓影図を作成し、さらに土器観察表を記したので、詳細についてはこれらを参考願いたい。一括土器、埋設土器の合計は22点であるが、上部を削平されたものや磨滅が著しいものが多く、復元できたのは12点であった。この中で石膏を全く使わないものは一点もなく、辛うじて全体の文様構成や器形がわかる復元土器は5点だけであった。復元土器については、第13図～第23図に示した。土器片は文様を描いたのが少なく、文様が明確な118点について第24～37図に示し、第3表に観察表を作成した。出土した土器群を文様表出技法や文様の構成及び胎土、器形から下記に分類されるが、年代としては縄文中期末葉の土器群が大半であり、縄文時代後期初頭の土器群が少量混入している。

前者をI群土器、後者をII群土器としI群土器はa～e類の6形態に、II群土器については出土数が少なかったことから分類するまでには至らなかった。

I群 a類土器（第23図他）

調整沈線文による渦巻「C」字状文を胴上部に、胴下部には縦位の「U」字状文を描いた文様構成であり、上部は波状文との組み合わせになっている。

器形は、胴中央部で外反し口縁部がやや内反する、小形の深鉢形土器である。今回の調査区出土土器群の中では、他の土器群に先行する形態と考えられる。出土数としては、少量であった。

I群 b類土器（第24図他）

胴部を調整沈線で区画し上部には文様、下部は縄文だけを施文するのを特徴とする形態を本類とした。今回調査区出土の主流のひとつである文様構成で、大木10a式に分類される土器群である。上部の文様は、稜線文による縦位の「S」字状文系や沈線文による「O」字状文系が認められた。

器形は、復元土器が少ないとから明確にいえないが第17図のMY 6から考慮すれば、最大径が胴中央部にあり、口縁部がやや外反する第14図に示した器形に類似する大形の深鉢形土器や口縁部が最大径の第16,19図の器形が想定される。

I群 c類土器（第22図他）

稜帶文、沈線文、隆線等による横位に展開する「C」字状文系の文様構成の土器群である。第22図の土器は文様構成が判別できる土器のひとつであり、横位の「S」字状文と「C」字状文が連続して4単位で構成している文様である。

I群 d類土器（第14図他）

器面全体を縄文原体で施文した粗製土器群であり、土器出土総数の約7割を占める。縄文原

体は、多条縄文が多く次に単節縄文、少量であるが複節縄文等が認められる。埋設土器で復元した第14、16、19図は完形に近い形態である。また、第21図1の小形土器は口唇部が無文帶を有するものも認められた。

I群e類（第21図2他）

台付土器の形態であり、穿孔を有する第21図2.5と同図3の穿孔がない形態が出土している。全体の器形は不明であるが、浅鉢形土器が上部に付くと想定される。

II群土器（第36図3他）

胎土に石英砂を多く含むのが特徴で、無調整の隆帯文で構成する文様である。今回の調査区から少量出土している。

（2）石器

総数で239点出土しており、堅穴住居跡40点、土壌群からは28点であった。その他は南方の包含層や遺構確認面からの出土である。剥片が209点で大半を占め、石器としては30点であった。剥片の縁辺に簡単な調整を加えただけの石器が多く、器種として分類できる形態の石器は、21点に過ぎなかった。

形態別の出土数は石鎌4点、石匙3点、石錐2点、小形範状石器1点、搔器4点、削器5点、磨製石斧2点であった。形態別に列挙した順に説明を加える。

石鎌（第38図1～4）

石材は、石英を使用した4を除き、頁岩を使用している。3はb面にバルブを残しており製作を断念した形態である。HY1の覆土から出土した4も厚みがあり、完成品でないと考えられる。1と2は完成の形態と考えられる。両者とも埋設土器や土壌からの出土であることから副葬品の可能性が高いと考えられる。

石匙（第38図7～9）

3点とも南方の包含層からの出土である。9は、小形の形態で両面調整によって整形されている。縁辺に使用痕が認められないことから、利器としての機能よりも装飾品の一種とも考えられる。7は縦型の片面調整、8は横型の片面調整であり、両者に使用痕が観察された。

石錐（第38図5.6）

細長の縦型剥片に簡単な調整を加え整形した形態ある。5はHY1の覆土から出土した。6は、南方の包含層からである。尖端部に使用痕は観察されなかった。

小形範状石器（第38図16）

両面に一次剥離面を残すが、縁辺から両面調整によって丁寧に整形されている。調査区の北西部遺構確認面から出土したもので、基部付近に柄着装痕が観察され、刃部に使用痕が認められた。刃部の形態から判断して、削器の機能を持つと考えられる。

搔器（第38図10.12.13.15）

4点とも使用痕が観察される。13・15はHY1の覆土から出土している。他の2点は南側包含層からであった。10は基部が欠損した形態であり、柄を着装して使用したものと考えられる。剥片の形態が判る様な簡単な整形である。

削器（第38図14）

実測図を作成したのは、1点だけである。縦型の剥片を素材に用い簡単な調整で整形した形態である。側辺に使用痕が認められた。

磨製石斧（第39図1.2）

地元の石材を使用して、研磨によって仕上げられた小形の形態である。刃部に使用による刃こぼれが認められる。1は緑色の硬質砂岩、2は安山岩の石材を使用している。1は南側の包含層から出土している。2はD Y 28の覆土からの出土であった。

礫器（第41図）

安山岩等の川原石を、台石や蔽石として使用した礫器群である。使用によって凹部ができるところから、凹石とも呼ばれる。使用の相違によって多様な形態が認められ、第12図に示したのが、今回調査区から出土した礫器の分類図である。

最も多く認められた形態が、a形態であり凹部が浅い形態で片面だけの使用と両面使用があり、磨面を持つものも認められた。大きさは、拳大で片手で持てる重さである。d類は蔽石よりも、凹部の形態から台石に使用された可能性が強い。使用する対象は堅果類の加工と想定される。

出土状況としては、調査区全域に点在するが、遺構の密集しない南側や南東が多く、遺構からの出土は少量であった。

（3）土製品（第39.40図）

磨滅の著しい3点を除き、48点について拓影図を作成した。土器片を素材に使用して、敲打によって円形に加工したものである。縄文時代中期中葉に最も多く見られる土製品である。

今回の調査区から出土したものは、小形の形態が多く認められた。中期中葉にはこれ以外に三角形土製品が出土しているが、今回は認められなかった。

製作目的は明確でないが、意図的に壊されているのもあり祭祀的要素を持つ遺物と考えられる。

（4）石製品（第39図3.4 第8図E Z26）

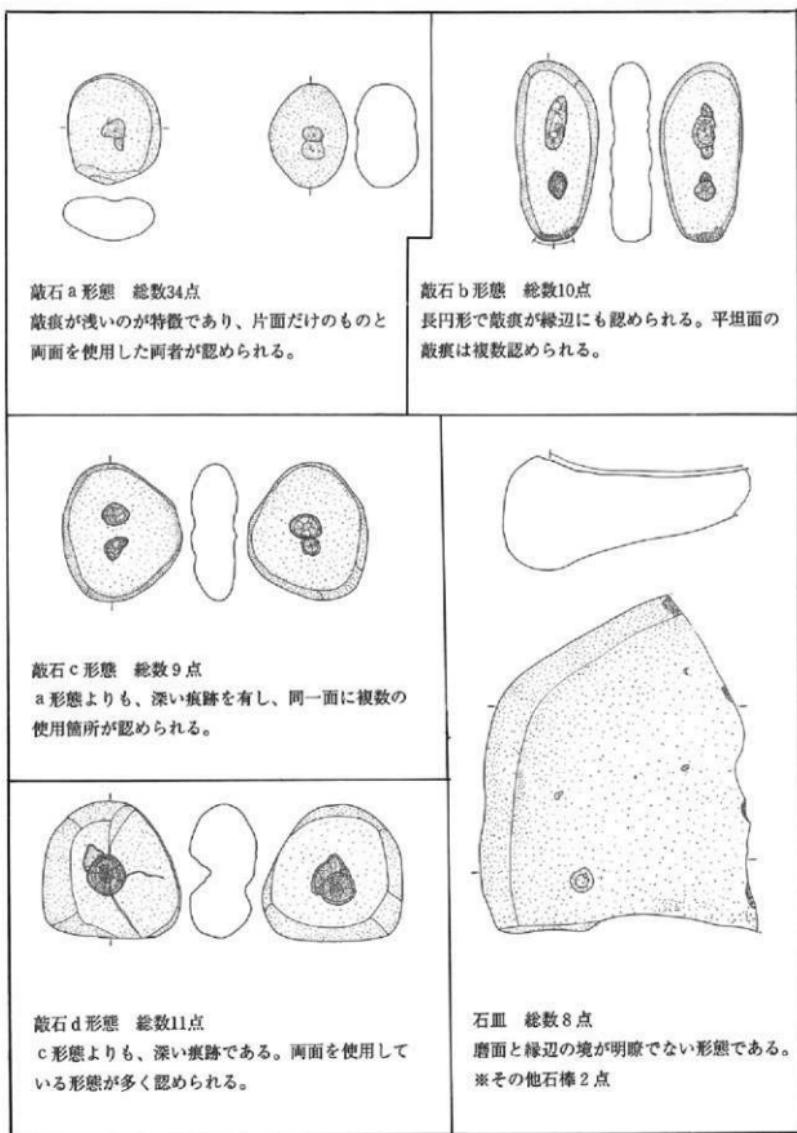
3は茶褐色の桂化木を石材に使用し、縦位の溝と未完通の穿孔を有する。長さが7.5cmあり、端面からも穿孔している。もう一方の端面は、欠損しており全容は不明である。

4は青灰色の粘板岩を素材に使用し、敲打によって整形した後に、研磨によって整形した石剣である。長さは11cm、厚さは1.5cmで意図的に折られた面が認められことから、祭祀に使用したものと考えられ、H Y 1の床面直上から出土している。

第8図のE Z26は、MY 8の内部から出土した。2cmと小形で、中央部に穿孔し縁辺の3箇所に凹部を整形した形態の石製品で、石材は灰白色の泥岩を使用している。

石棒（第42図2）

粗面岩を石材に用い、角の部分を敲打によって丸く整形を加え、研磨によって整形した石棒である。端面の周辺にも調整を加え図で示した形態に加工している。側面には、加熱によるハジケ面を有する。意図的に折られた面が認められた。



第12図 花沢A遺跡出土礫器分類図

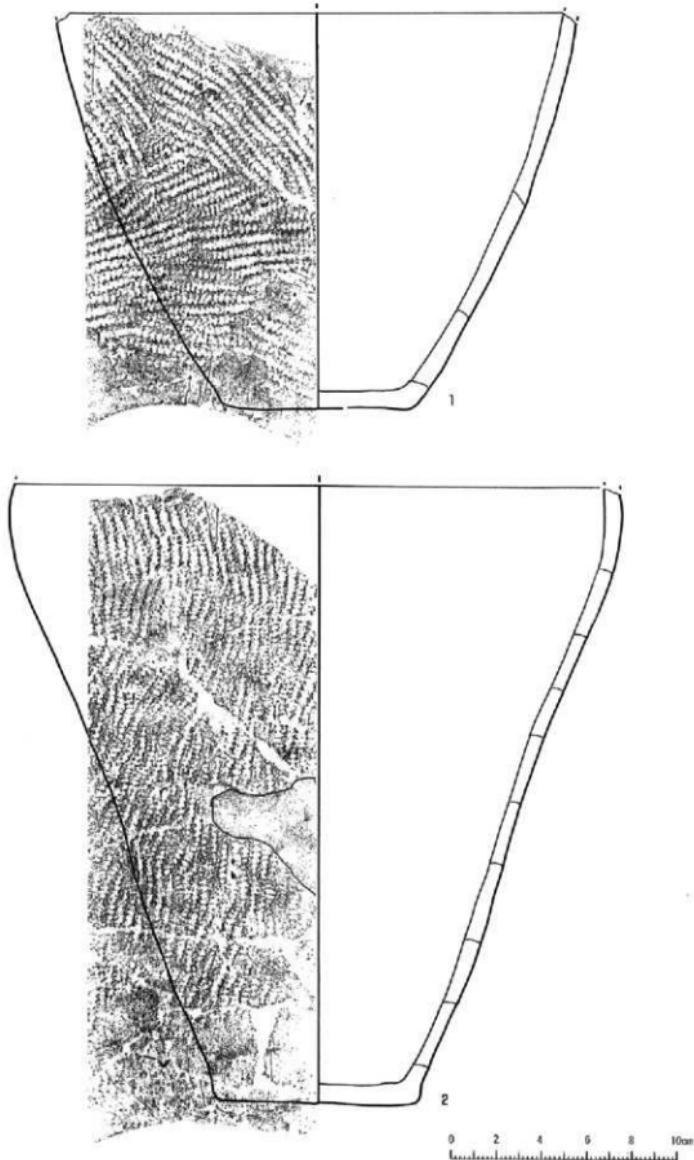
第3表 花沢A遺跡出土土器観察表

fは覆土を示す

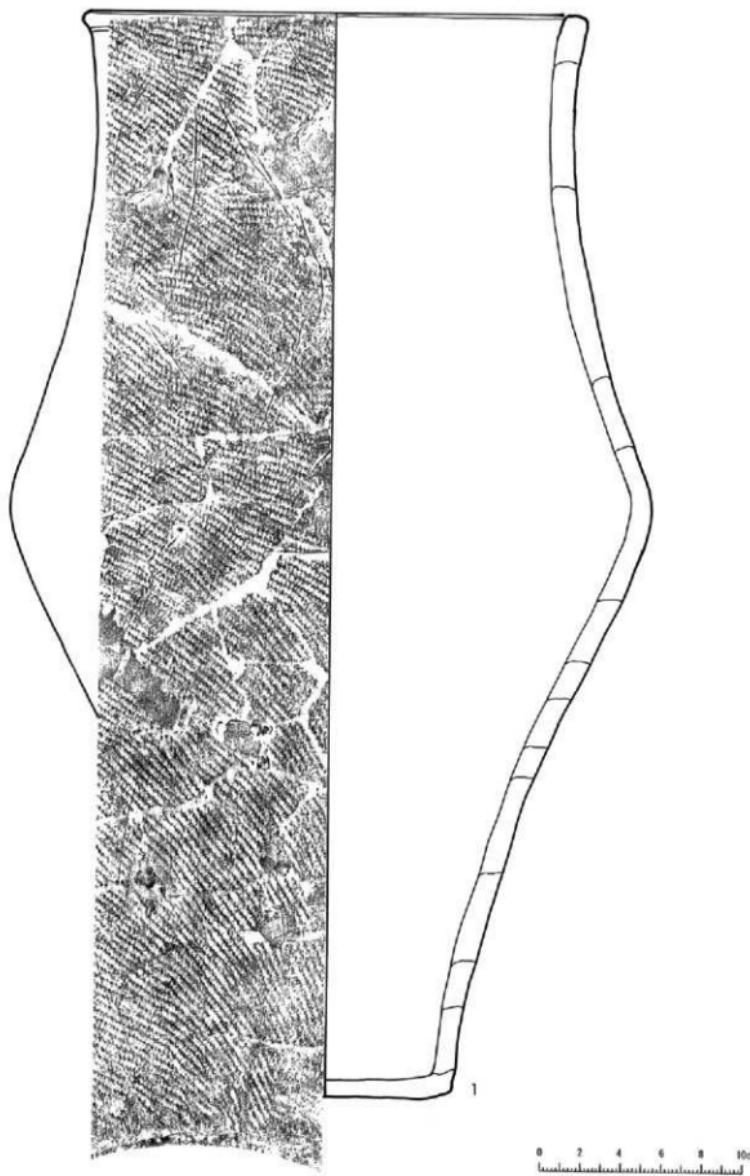
| 番号 | 排図番号 | 出土地区 | 層位 | 文様表出技法 | 単位文様 | 図版番号 | 分類 |
|----|--------|------|----|-----------|-------------------|---------|------|
| 1 | 第13図1 | MY7b | II | L R 4本多条 | 胴上半部欠損のため不明 | 第26図版1 | 不明 |
| 2 | 第13図2 | MY7A | II | R L 4本多条 | 胴上半部欠損のため不明 | 第26図版2 | 不明 |
| 3 | 第14図1 | MY1 | II | L R 3本多条 | 胴上半部欠損のため不明 | 第27図版1 | I群d類 |
| 4 | 第15図1 | MY3 | II | 調整沈線文 | 胴上半部欠損のため不明 | 第27図版2 | I群d類 |
| 5 | 第16図1 | MY2 | II | R L 3本多条 | | 第28図版1 | I群d類 |
| 6 | 第17図1 | MY6 | II | 調整沈線文 | 変形の「e」字状文? | 第28図版2 | I群d類 |
| 7 | 第18図1 | MY4 | II | 隆帯文 | 胴上半部欠損のため不明 | 第29図版1 | I群c類 |
| 8 | 第18図2 | HY1炉 | II | L R 3本多条 | 胴上半部欠損のため不明 | 第29図版2 | 不明 |
| 9 | 第19図1 | MY10 | II | R L 3本多条 | | 第30図版1 | I群d類 |
| 10 | 第20図1 | MY11 | II | R L複飾繩文 | 胴上半部欠損のため不明 | 第30図版2 | 不明 |
| 11 | 第21図1 | HY1 | f | 直前段多条の繩3本 | | | I群d類 |
| 12 | 第21図2 | SW区 | II | 無文 | | 第36図版20 | I群e類 |
| 13 | 第21図3 | NE区 | II | 無文 | | | I群e類 |
| 14 | 第21図4 | NE区 | II | 調整沈線文、隆帯文 | 同心円文 | 第36図版1 | I群c類 |
| 15 | 第21図5 | SW区 | II | 無文 | | | I群e類 |
| 16 | 第22図1 | DY33 | f | 稜帯文 | 変形の「e」字状文 | 第31図版1 | I群c類 |
| 17 | 第23図1 | DY27 | 底面 | 調整沈線文 | 渦巻「c」字、縱位「U」字状文 | 第31図版2 | I群a類 |
| 18 | 第24図1 | DY38 | f | 調整沈線文、隆帯文 | 横位の「s」字状文 | 第33図版1 | I群c類 |
| 19 | 第25図1 | DY24 | 底面 | 調整沈線文 | 横位の「e」字状文 | 第32図版1 | I群b類 |
| 20 | 第25図2 | DY24 | f | 調整沈線文 | 横位の「e」字状文 | 第35図版21 | I群b類 |
| 21 | 第25図3 | DY24 | f | 調整沈線文 | | 第36図版20 | I群b類 |
| 22 | 第25図4 | DY24 | f | 異状繩文 | | | I群d類 |
| 23 | 第26図1 | NE区 | II | 調整沈線文 | 変形の「c」字状文 | | I群b類 |
| 24 | 第26図2 | SE区 | II | 調整沈線文 | 変形の「c」字状文 | | I群b類 |
| 25 | 第27図1 | HY1 | f | 稜帯文 | 「c」字状文 | 第34図版4 | I群c類 |
| 26 | 第27図2 | HY1 | f | 隆帯文 | 変形の「c」字状文互渦巻文+横円文 | 第34図版1 | I群c類 |
| 27 | 第27図3 | HY1 | f | 隆帯文 | 不明 | 第34図版7 | I群c類 |
| 28 | 第27図4 | HY1 | f | L R 3本多条 | | | II群 |
| 29 | 第28図1 | HY1 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第34図版8 | I群b類 |
| 30 | 第28図2 | HY1 | f | 稜沈文 | 横位の「c」字状文 | 第34図版9 | I群c類 |
| 31 | 第28図3 | HY1 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第35図版6 | I群b類 |
| 32 | 第28図4 | HY1 | f | 調整沈線文 | 平行沈線文 | | I群d類 |
| 33 | 第28図5 | DY2 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第35図版13 | I群b類 |
| 34 | 第28図6 | DY2 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第34図版19 | I群b類 |
| 35 | 第28図7 | DY2 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群b類 |
| 36 | 第28図8 | DY5 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第35図版15 | I群b類 |
| 37 | 第28図9 | DY9 | f | 稜帯文 | 重同心円文 | 第34図版2 | I群c類 |
| 38 | 第28図10 | DY9 | f | 稜帯文 | 重同心円文 | 第34図版3 | I群c類 |
| 39 | 第29図1 | DY14 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文系 | 第34図版11 | I群b類 |
| 40 | 第29図2 | DY14 | f | 調整沈線文 | 変形の「の」字状文系 | | I群b類 |
| 41 | 第29図3 | DY14 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文系 | | I群b類 |

| | | | | | | | |
|----|--------|-------|----|----------|-----------|---------|-------|
| 42 | 第29回 4 | D Y14 | f | 調整沈線文 | 縦位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 43 | 第29回 5 | D Y14 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 44 | 第30回 1 | D Y14 | f | 調整沈線文 | 渦巻「の」字状文 | 第34回版10 | I群 a類 |
| 45 | 第30回 2 | D Y19 | f | 隆沈文 | 横位の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 46 | 第30回 3 | D Y19 | f | 隆沈文 | 横位の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 47 | 第30回 4 | D Y19 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 48 | 第30回 5 | D Y19 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 49 | 第30回 6 | D Y22 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 50 | 第30回 7 | D Y22 | f | 後沈文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版12 | I群 b類 |
| 51 | 第30回 8 | D Y22 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版11 | I群 b類 |
| 52 | 第30回 9 | D Y22 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 53 | 第30回10 | D Y22 | f | 稜沈文 | 変形の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 54 | 第30回11 | T Y23 | f | 隆沈文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版10 | I群 c類 |
| 55 | 第31回 1 | D Y27 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第34回版22 | I群 b類 |
| 56 | 第31回 2 | D Y27 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 a類 |
| 57 | 第31回 3 | D Y27 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 58 | 第31回 4 | D Y30 | f | 稜帶文 | 横位の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 59 | 第31回 5 | D Y30 | f | 稜帶文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版 5 | I群 c類 |
| 60 | 第31回 6 | D Y31 | f | 稜帶文 | 横位の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 61 | 第31回 7 | D Y32 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 62 | 第31回 8 | D Y32 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第34回版23 | I群 b類 |
| 63 | 第31回 9 | D Y32 | f | 隆帶文 | 突刺文 | | I群 c類 |
| 64 | 第31回10 | D Y32 | f | 稜沈文 | 横位の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 65 | 第31回11 | D Y32 | f | 後沈文 | 変形の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 66 | 第32回 1 | D Y33 | f | 稜帶文 | 横位の「c」字状文 | 第32回版 2 | I群 c類 |
| 67 | 第32回 2 | H Y 1 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第33回版 2 | I群 b類 |
| 68 | 第33回 1 | D Y33 | f | 隆帶文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版 1 | I群 c類 |
| 69 | 第33回 2 | D Y33 | f | R L 5本多条 | 横位の「c」字状文 | | I群 d類 |
| 70 | 第33回 3 | D Y38 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版 7 | I群 b類 |
| 71 | 第33回 4 | D Y38 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版 3 | I群 b類 |
| 72 | 第33回 5 | D Y38 | f | 2 R 単節 | | | I群 d類 |
| 73 | 第33回 6 | D Y38 | f | 稜帶文 | 横位の「c」字状文 | 第34回版12 | I群 c類 |
| 74 | 第33回 7 | D Y41 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 75 | 第33回 8 | D Y41 | f | 調整沈線文 | 変形の「c」字状文 | | I群 b類 |
| 76 | 第34回 1 | D Y44 | f | 稜帶文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版 8 | I群 c類 |
| 77 | 第34回 2 | D Y44 | f | 稜帶文 | 横位の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 78 | 第34回 3 | D Y44 | f | 稜沈文 | 横位の「c」字状文 | | I群 c類 |
| 79 | 第34回 4 | D Y46 | f | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | 第35回版 4 | I群 b類 |
| 80 | 第34回 5 | D Y46 | f | 調整沈線文 | 変形の「c」字状文 | 第35回版 2 | I群 b類 |
| 81 | 第34回 6 | D Y51 | f | 稜沈文 | 横位の「c」字状文 | 第34回版 6 | I群 c類 |
| 82 | 第34回 7 | D Y51 | f | 調整沈線文 | 変形の「c」字状文 | 第34回版15 | I群 b類 |
| 83 | 第35回 1 | D Y48 | f | 稜沈文 | 横位の「c」字状文 | 第34回版 5 | I群 c類 |
| 84 | 第35回 2 | D Y48 | f | 隆帶文 | 横位の「c」字状文 | 第34回版16 | II群 |
| 85 | 第35回 3 | N E 区 | II | 調整沈線文 | 横位の「c」字状文 | | I群 b類 |

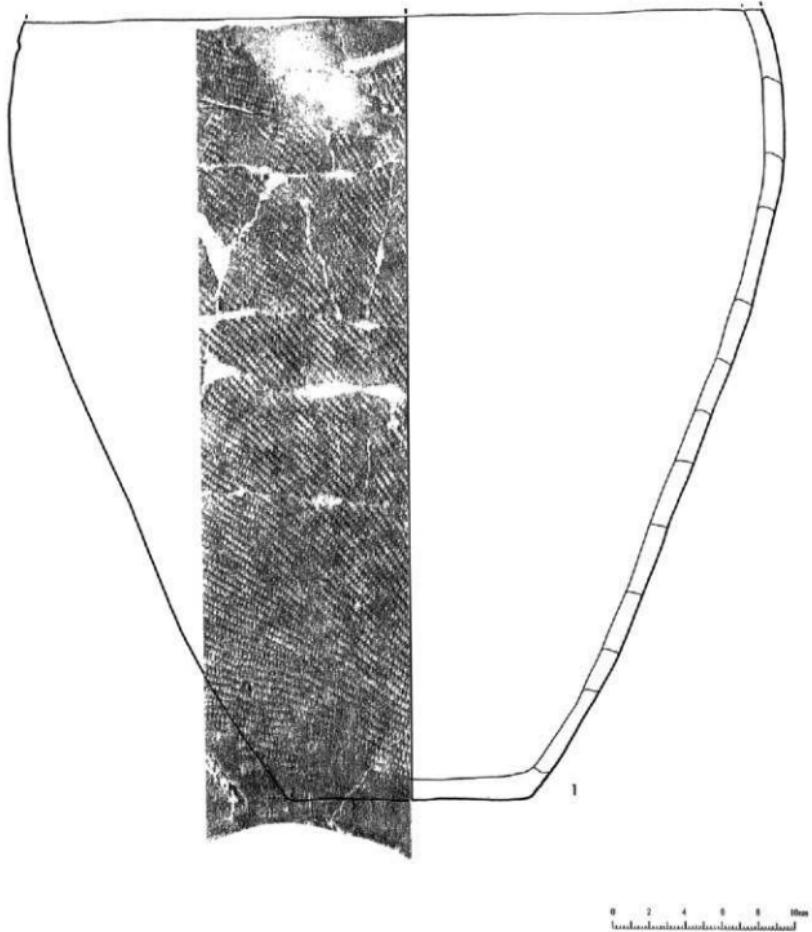
| | | | | | | | |
|-----|--------|-----|----|----------|-----------|---------|------|
| 86 | 第35図4 | NE区 | II | 調整沈線文 | 横位の「e」字状文 | 第35図版22 | I群b類 |
| 87 | 第35図5 | NE区 | II | 調整沈線文 | 横位の「e」字状文 | 第35図版18 | I群b類 |
| 88 | 第35図6 | SE区 | II | 調整沈線文 | 横位の「e」字状文 | | I群b類 |
| 89 | 第35図7 | SE区 | II | 調整沈線文 | 横位の「e」字状文 | | I群b類 |
| 90 | 第35図8 | SE区 | II | 調整沈線文 | 横位の「e」字状文 | | I群b類 |
| 91 | 第35図9 | SW区 | II | 稜帯文 | 横位の「e」字状文 | | I群c類 |
| 92 | 第35図10 | NW区 | II | 稜帯文 | 横位の「e」字状文 | | I群c類 |
| 93 | 第35図11 | NE区 | II | 稜帯文 | 横位の「e」字状文 | | I群c類 |
| 94 | 第35図12 | NE区 | II | 稜帯文 | 横位の「e」字状文 | | I群c類 |
| 95 | 第35図13 | SW区 | II | 調整沈線 | 横位の「e」字状文 | | I群b類 |
| 96 | 第36図1 | NE区 | II | 稜帯文 | 横位の「e」字状文 | 第35図版19 | I群c類 |
| 97 | 第36図2 | SW区 | II | 稜帯文 | | | I群c類 |
| 98 | 第36図3 | SE区 | II | 稜帯文 | 「の」字状文 | 第35図版16 | I群c類 |
| 99 | 第36図4 | NE区 | II | 稜帯文 | 変形の「e」字状文 | 第35図版25 | I群c類 |
| 100 | 第36図5 | NE区 | II | 稜帯文 | 変形の「e」字状文 | 第35図版9 | I群c類 |
| 101 | 第36図6 | SW区 | II | 稜帯文 | | | I群c類 |
| 102 | 第36図7 | NE区 | II | 隆帯文 | 突刺文 他 | 第35図版23 | I群c類 |
| 103 | 第36図8 | NE区 | II | 稜帯文 | | | I群c類 |
| 104 | 第36図9 | NE区 | II | 隆帯文 | 変形の「e」字状文 | 第35図版14 | I群c類 |
| 105 | 第36図10 | NE区 | II | 隆帯文 | 突刺文 他 | 第35図版24 | I群c類 |
| 106 | 第36図11 | NE区 | II | 隆帯文 | 突刺文 他 | | I群c類 |
| 107 | 第36図12 | NE区 | II | 隆帯文 | 突刺文 他 | 第35図版17 | I群c類 |
| 108 | 第36図13 | NE区 | II | 調整沈線 | 突刺文 他 | 第35図版20 | I群b類 |
| 109 | 第36図14 | SE区 | II | 調整沈線 | 変形の「e」字状文 | | I群b類 |
| 110 | 第36図15 | NW区 | II | R L 4本多条 | | | I群d類 |
| 111 | 第36図16 | NW区 | II | L R 単節 | | | I群d類 |
| 112 | 第36図17 | SW区 | II | R L 単節 | | | I群d類 |
| 113 | 第37図1 | SW区 | II | L R 4本多条 | | | I群d類 |
| 114 | 第37図2 | SW区 | II | R L 4本多条 | | | I群d類 |
| 115 | 第37図3 | SW区 | II | L R 4本多条 | | | I群d類 |
| 116 | 第37図4 | SW区 | II | L R 4本多条 | | | I群d類 |
| 117 | 第37図5 | SW区 | II | L R 3本多条 | | | I群d類 |
| 118 | 第37図6 | SW区 | II | L R 4本多条 | | | I群d類 |
| 119 | 第37図7 | SW区 | II | R L 4本多条 | | | I群d類 |
| 120 | 第37図8 | SW区 | II | L R 4本多条 | | | I群d類 |
| 121 | 第37図9 | SW区 | II | L R 单節 | | | I群d類 |
| 122 | 第37図10 | SW区 | II | L R 4本多条 | | | I群d類 |
| 123 | 第37図11 | SW区 | II | R L 单節 | | | I群d類 |
| 124 | 第37図12 | SW区 | II | L R 单節 | | | I群d類 |
| 125 | 第37図13 | NW区 | II | L R 4本多条 | | | I群d類 |
| 126 | 第37図14 | NW区 | II | R L 4本多条 | | | I群d類 |
| 127 | 第37図15 | SW区 | II | R L 3本多条 | | | I群d類 |
| 128 | 第37図16 | NW区 | II | L R 4本多条 | | | I群d類 |
| 129 | 第37図17 | NW区 | II | R L 4本多条 | | | I群d類 |



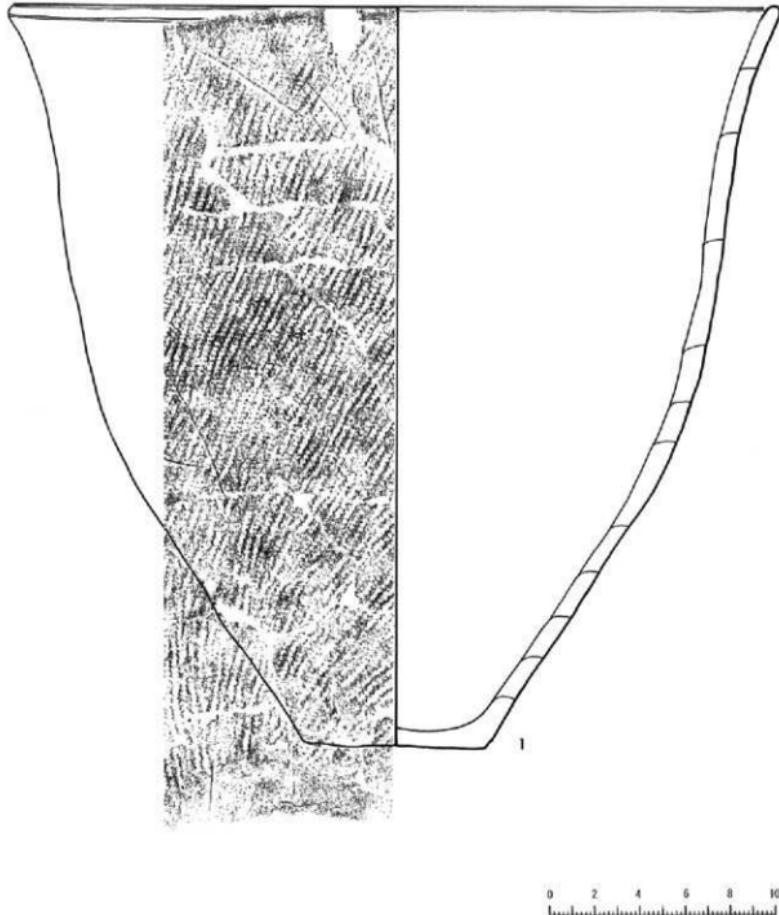
第13図 花沢A遺跡出土土器実測図（1）



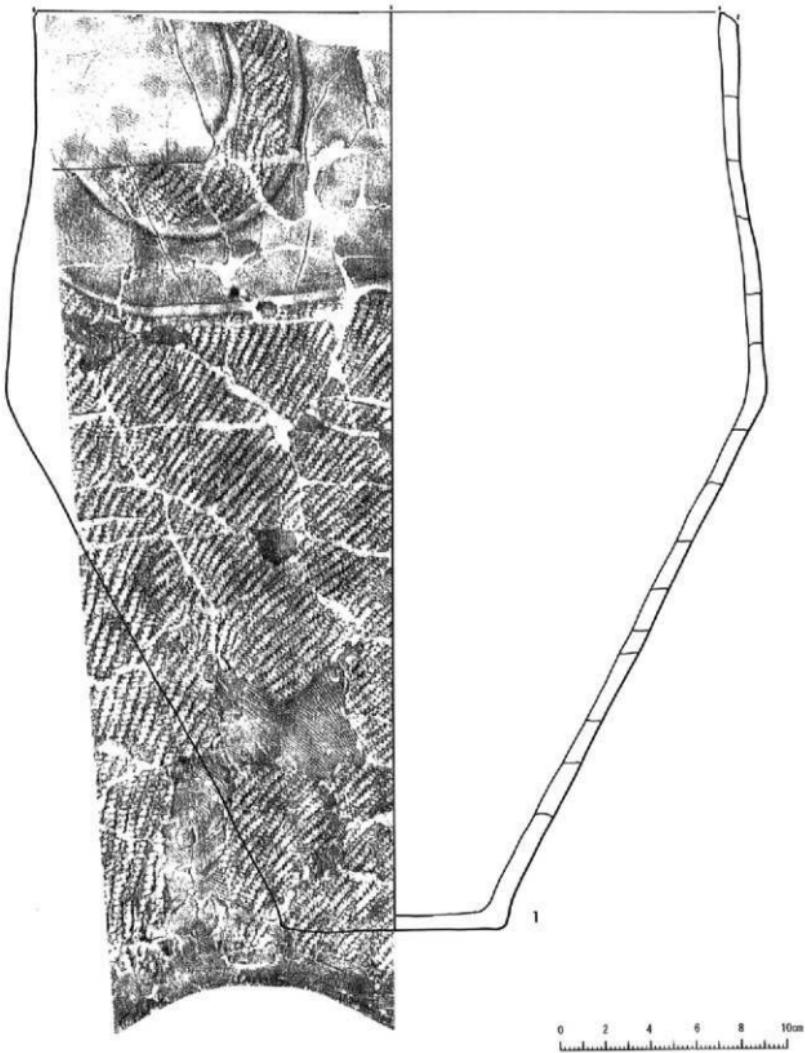
第14図 花沢A遺跡出土土器実測図（2）



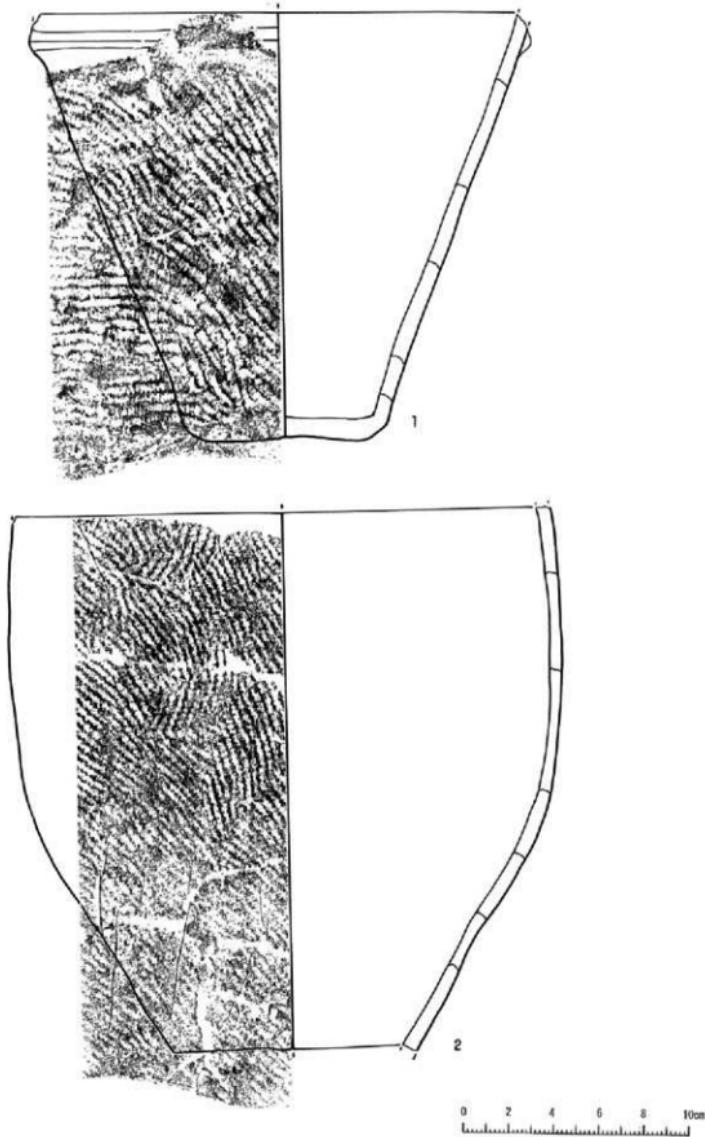
第15図 花沢A遺跡出土土器実測図（3）



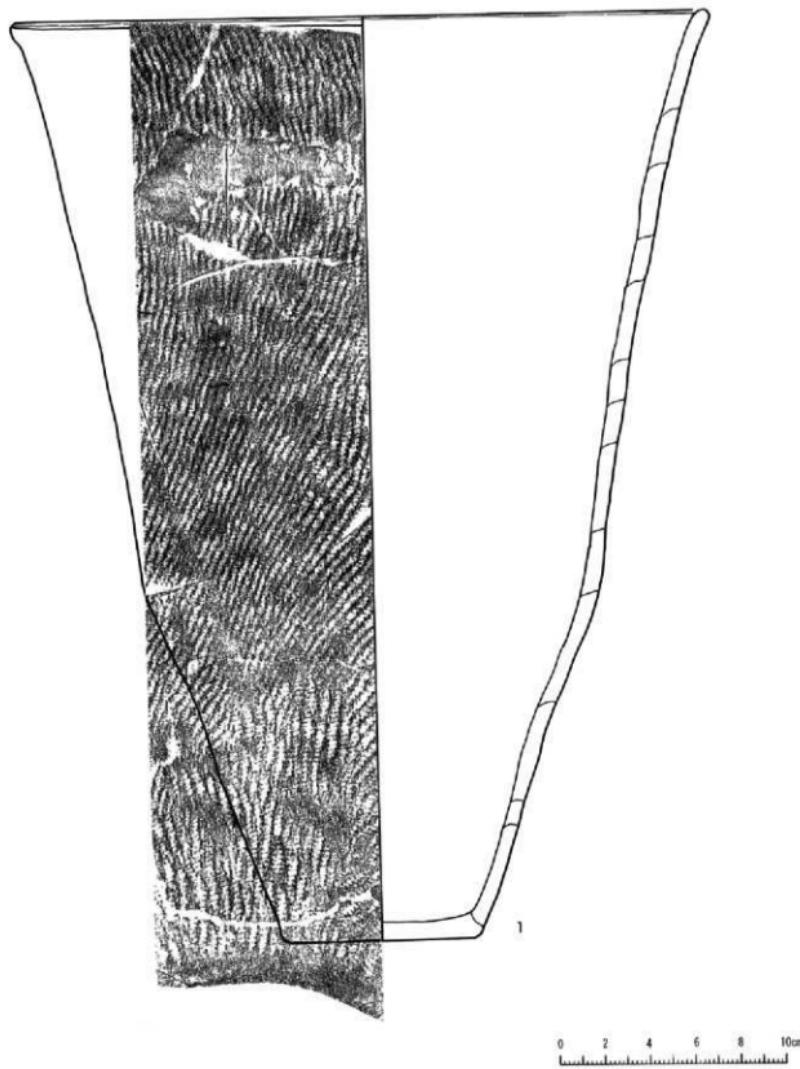
第16図 花沢A遺跡出土土器実測図（4）



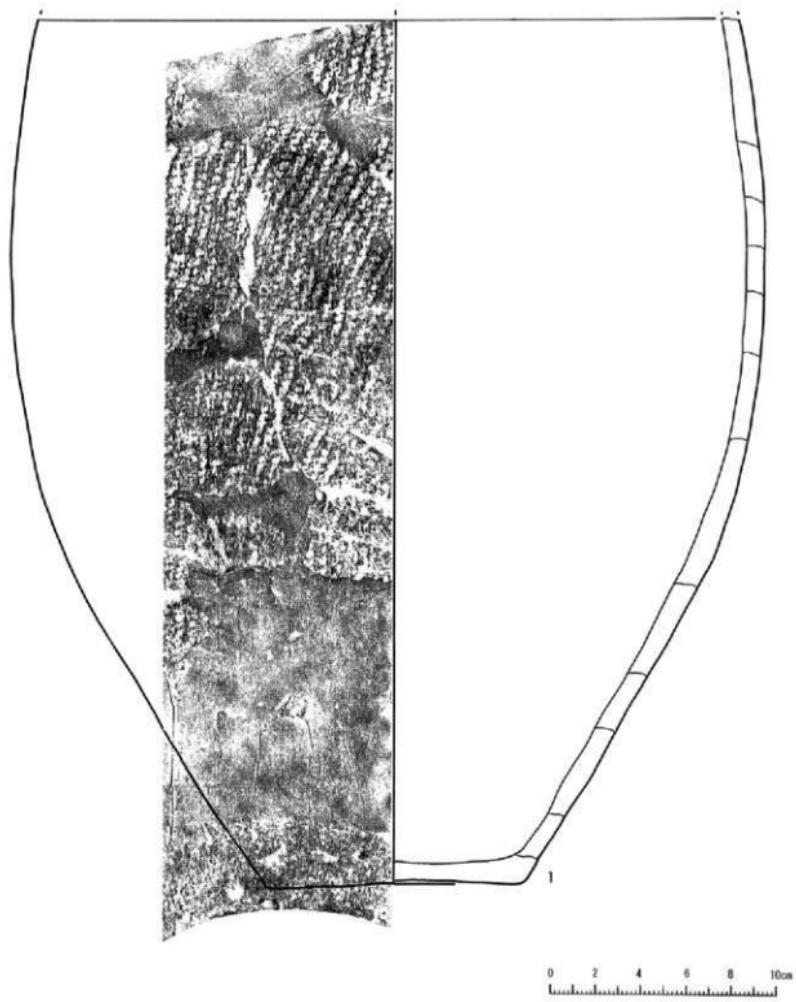
第17図 花沢A遺跡出土土器実測図（5）



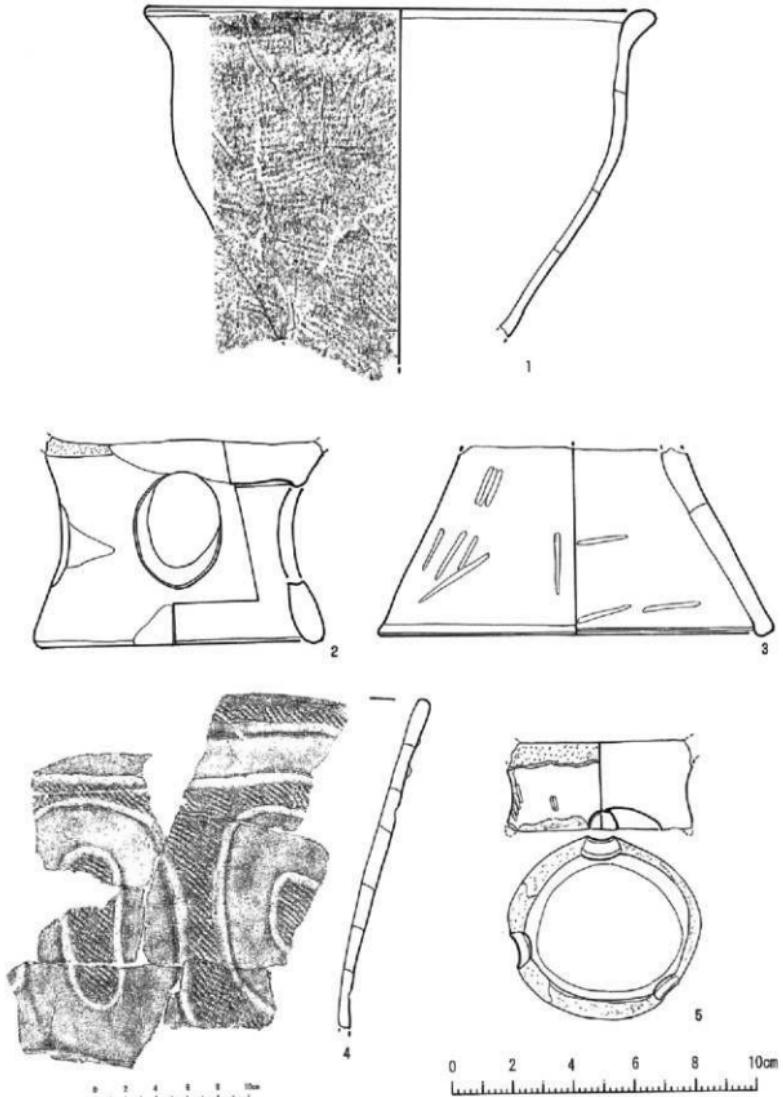
第18図 花沢A遺跡出土土器実測図（6）



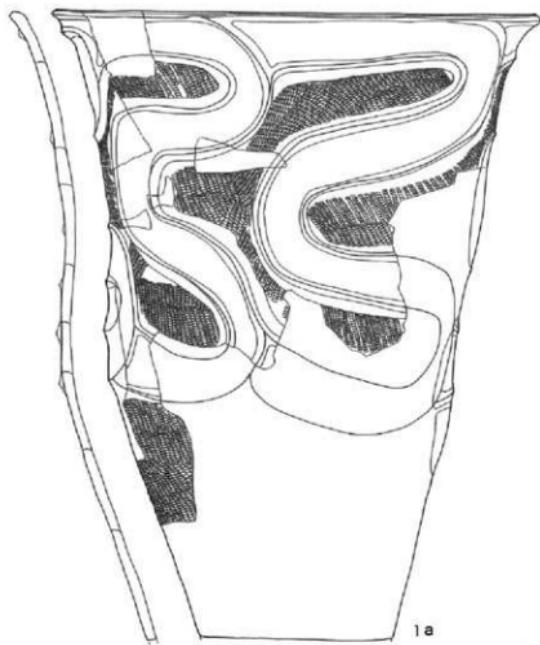
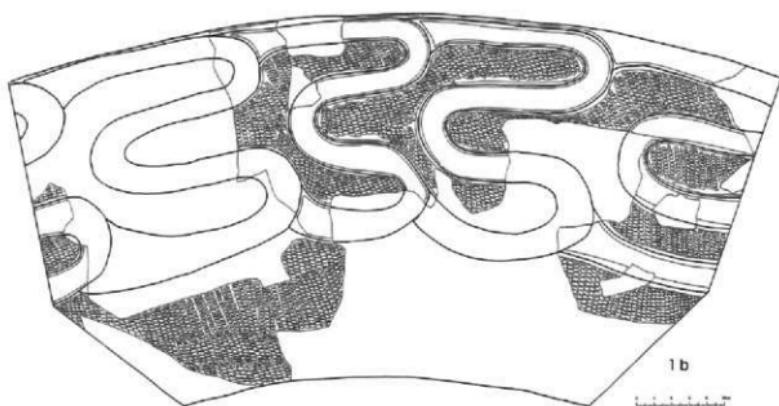
第19図 花沢A遺跡出土土器実測図（7）



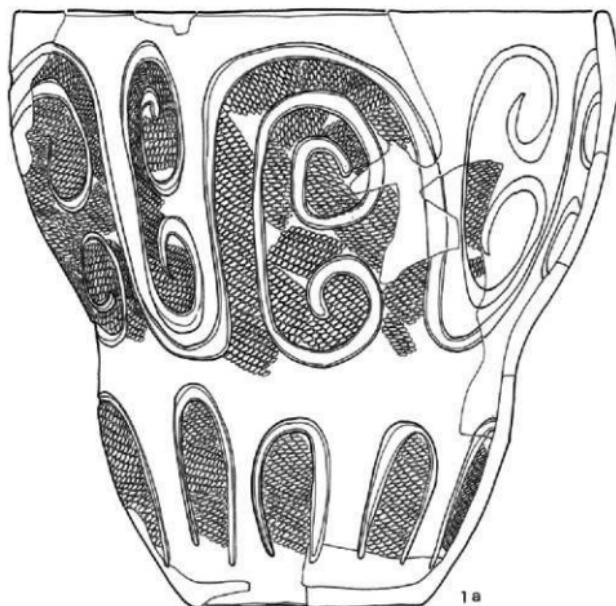
第20図 花沢A遺跡出土土器実測図（8）



第21図 花沢A遺跡出土土器実測図、拓影図（9）



第22図 花沢A遺跡出土土器実測図、展開図 (10)



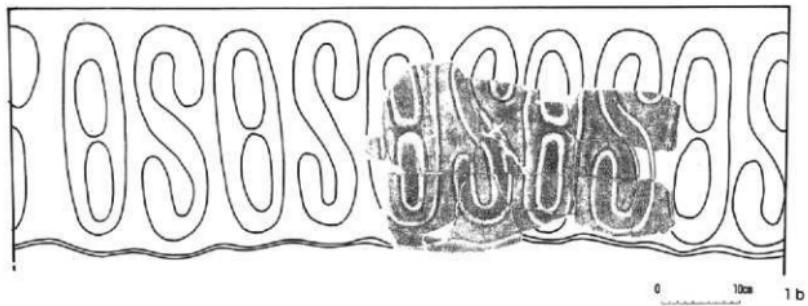
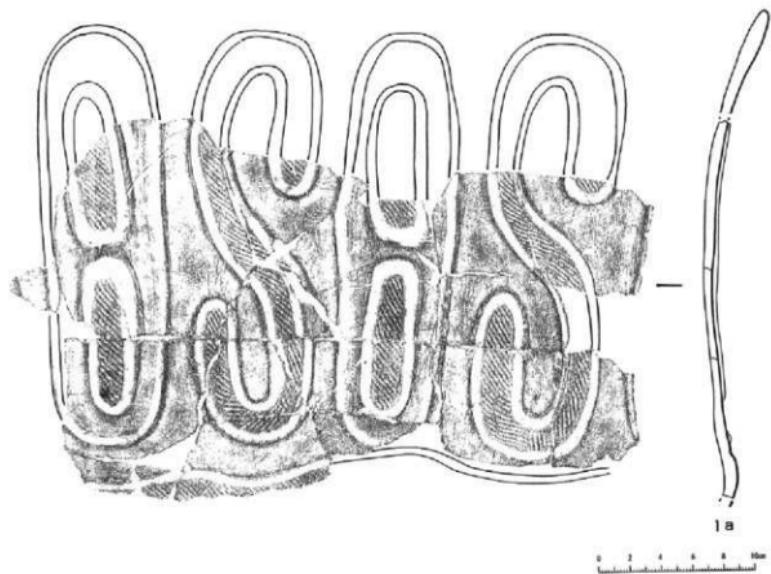
1a



1b

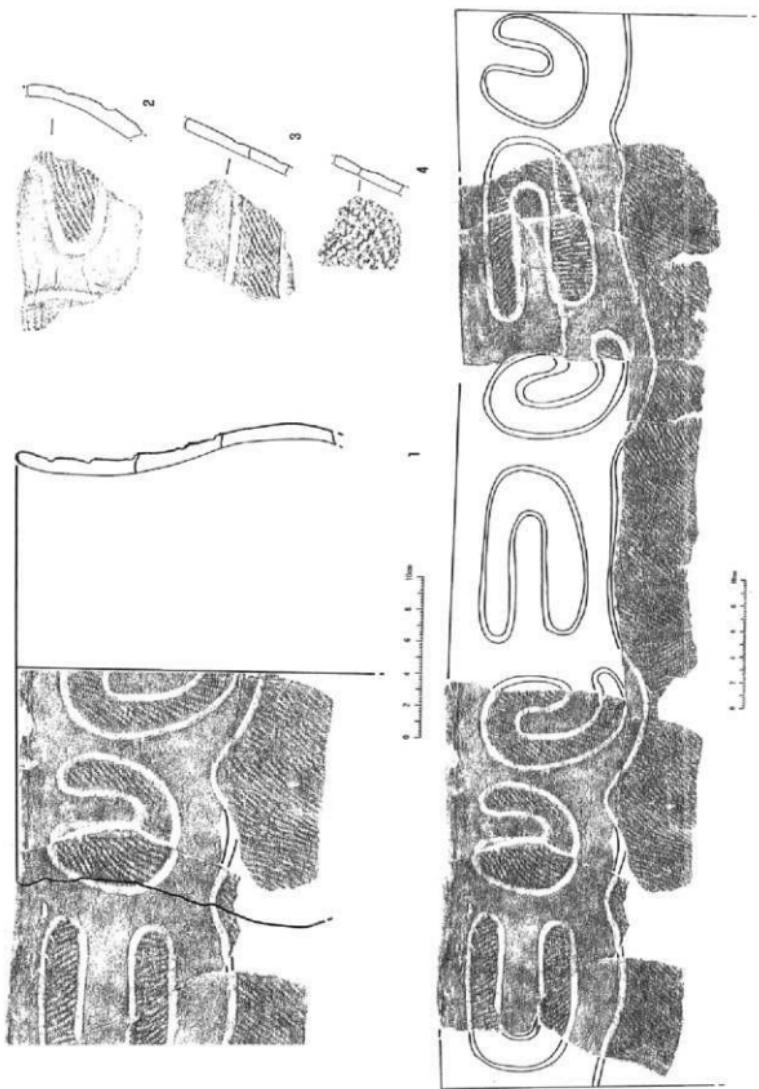


第23図 花沢A遺跡出土土器実測図、展開図 (11)

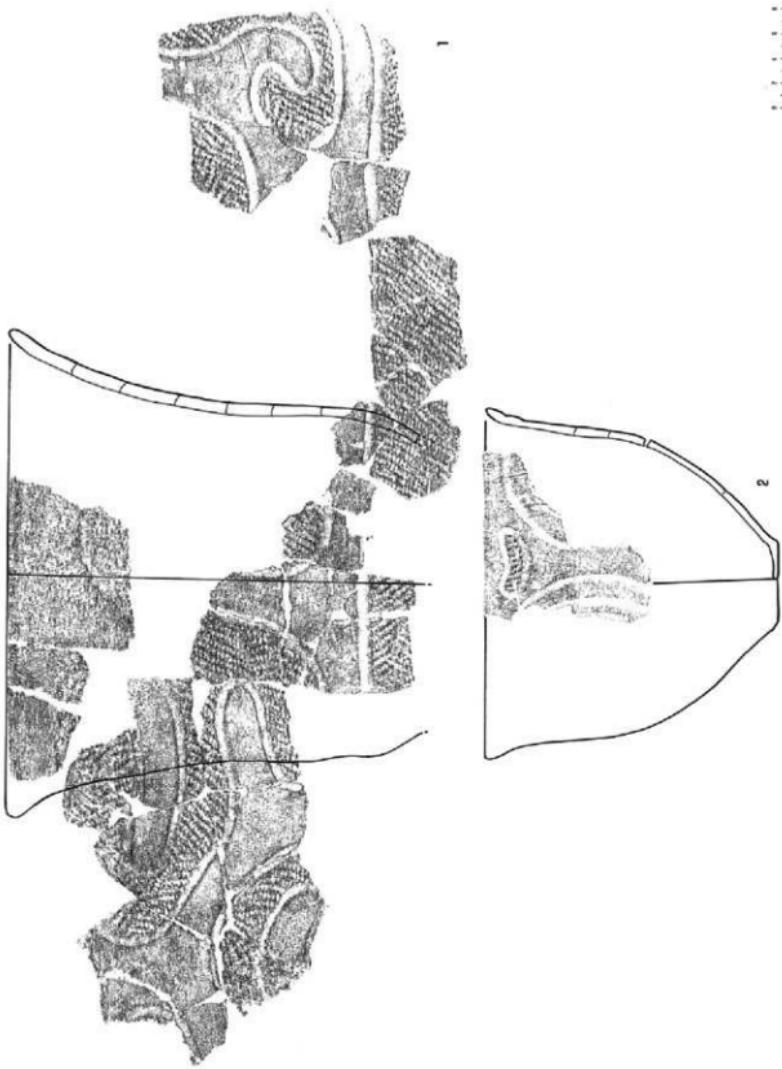


第24図 花沢A遺跡出土土器実測図、展開図 (12)

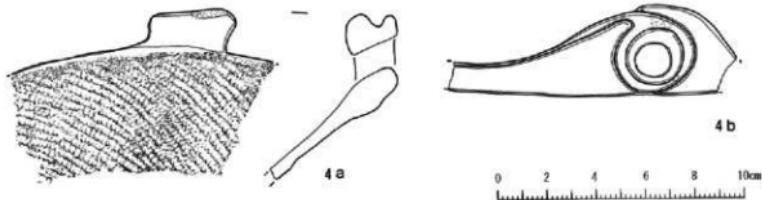
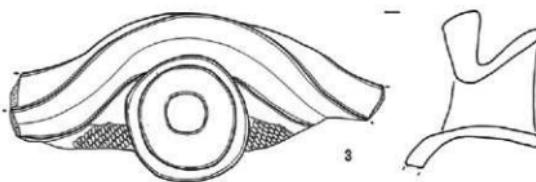
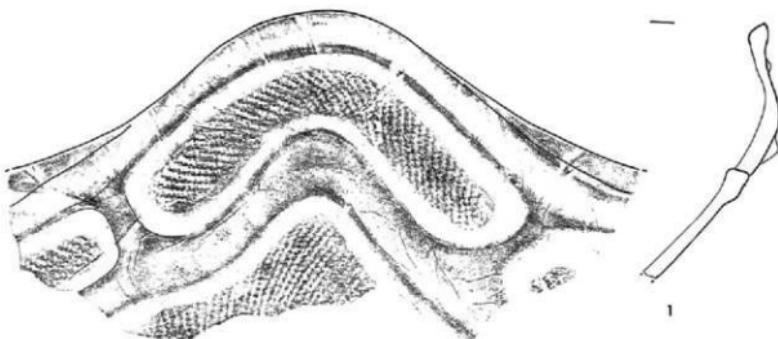
第25図 花沢A遺跡出土土器展開図、拓影図(13)



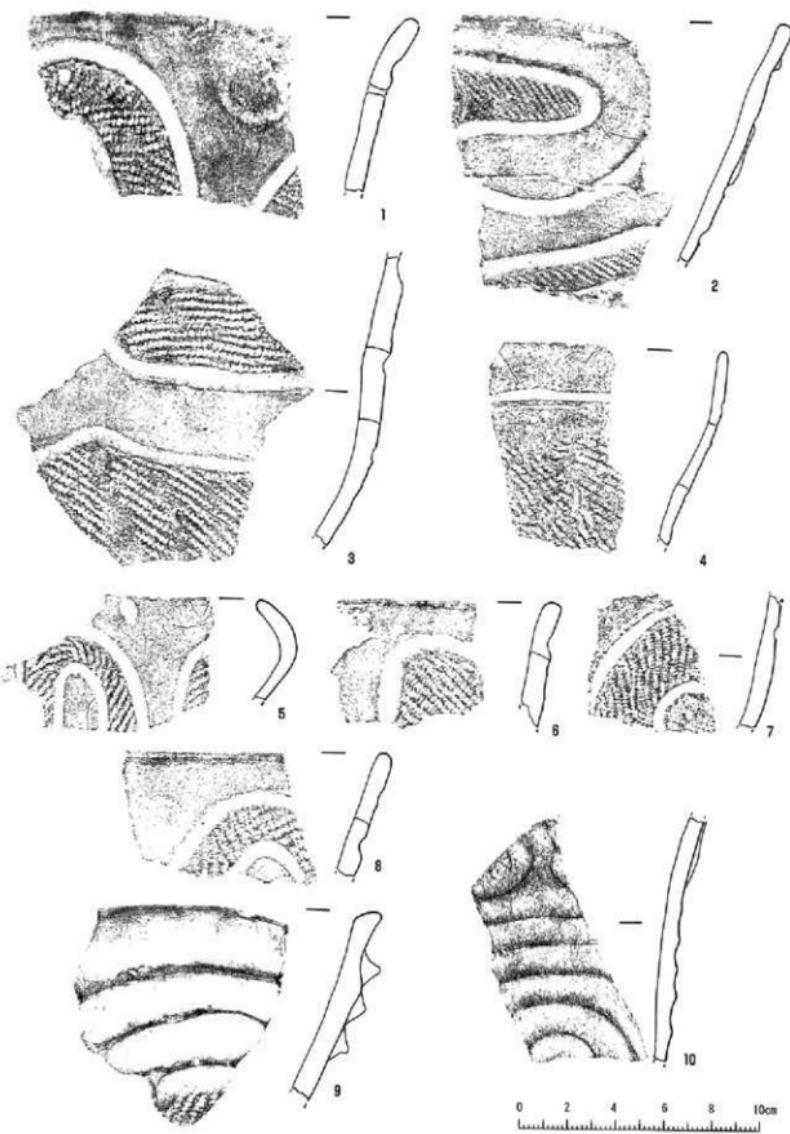
1
2



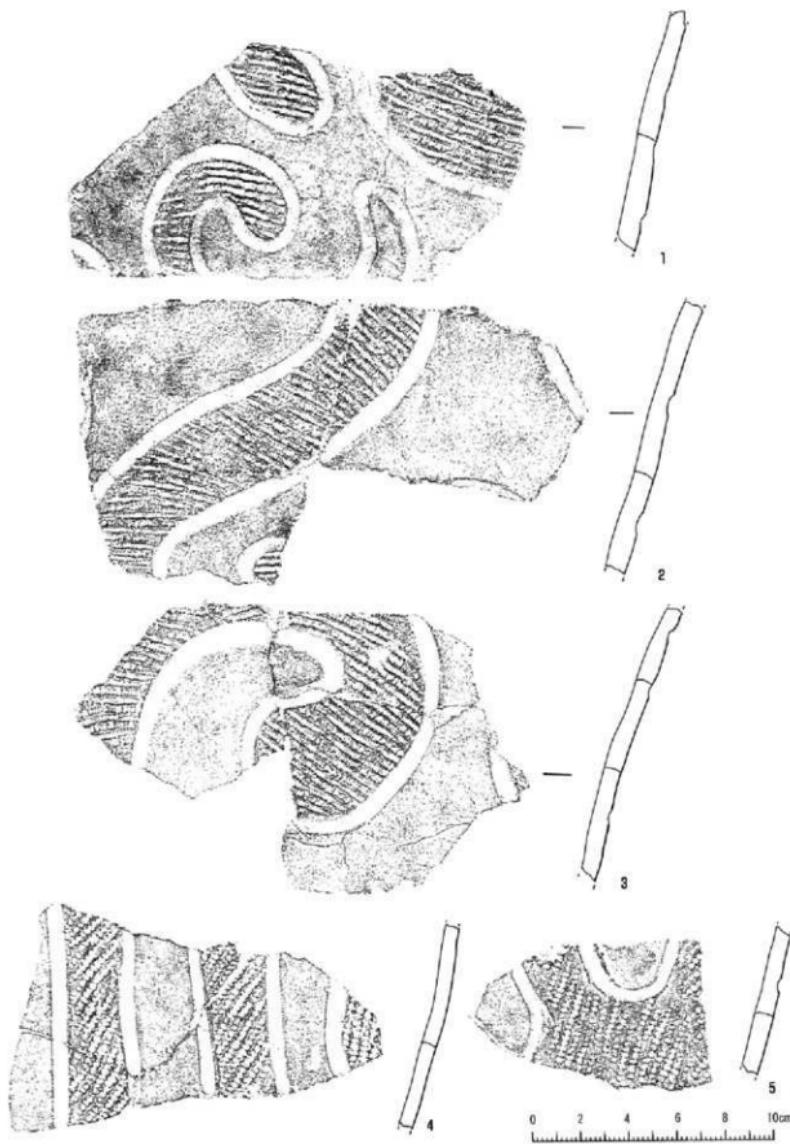
第26圖 花JIA遺跡出土土器測圖 (14)



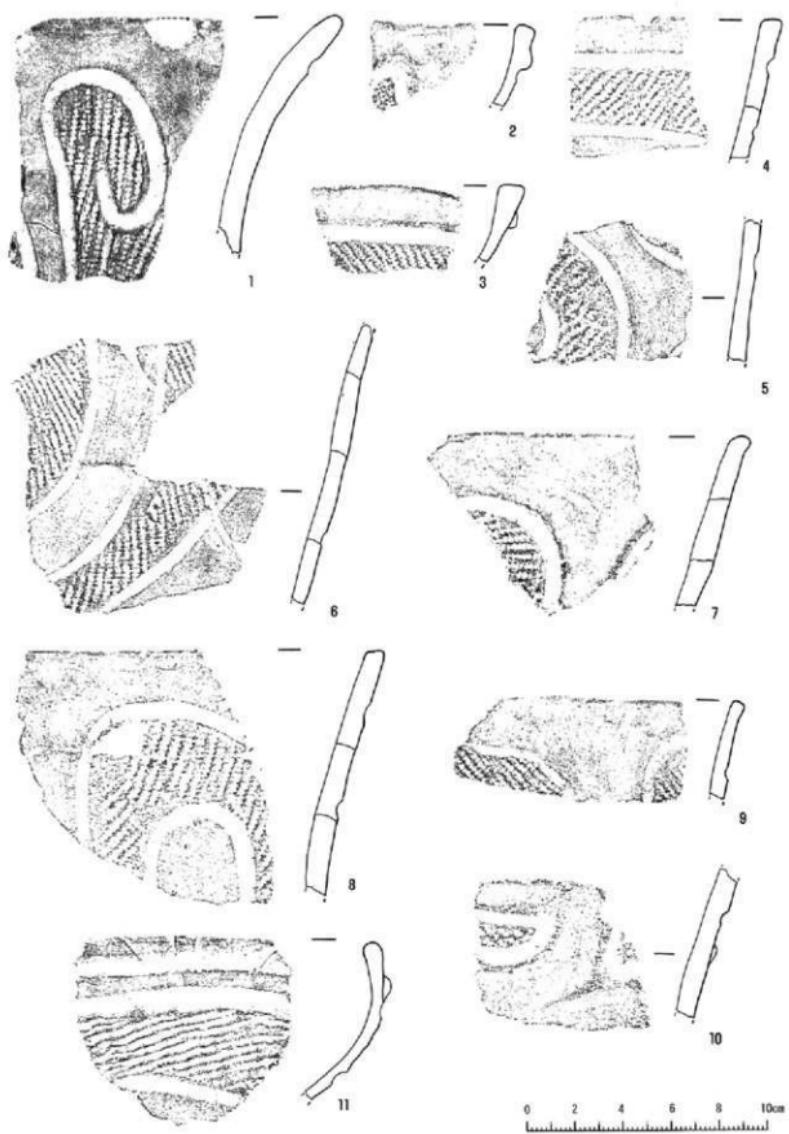
第27図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (15)



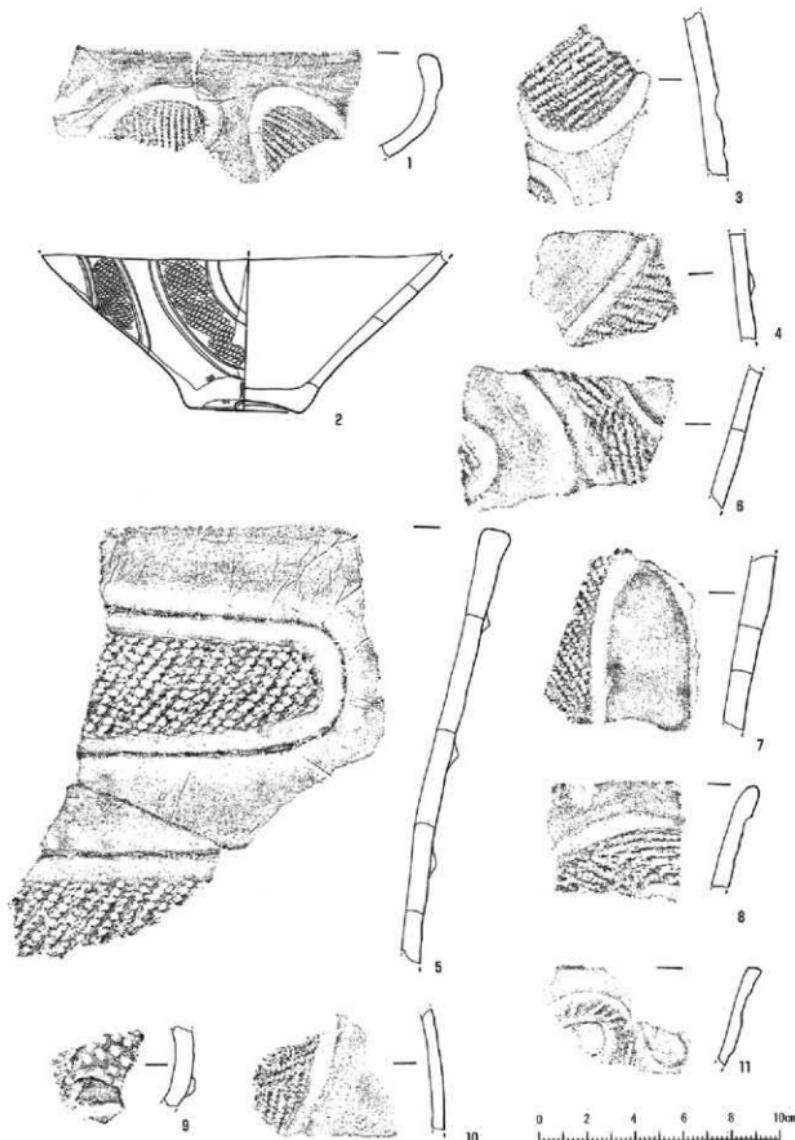
第28図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (16)



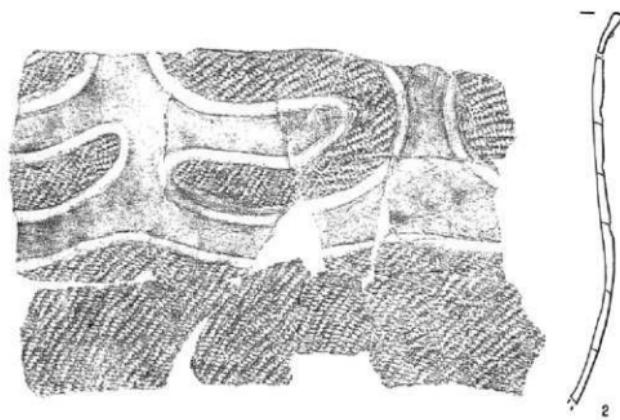
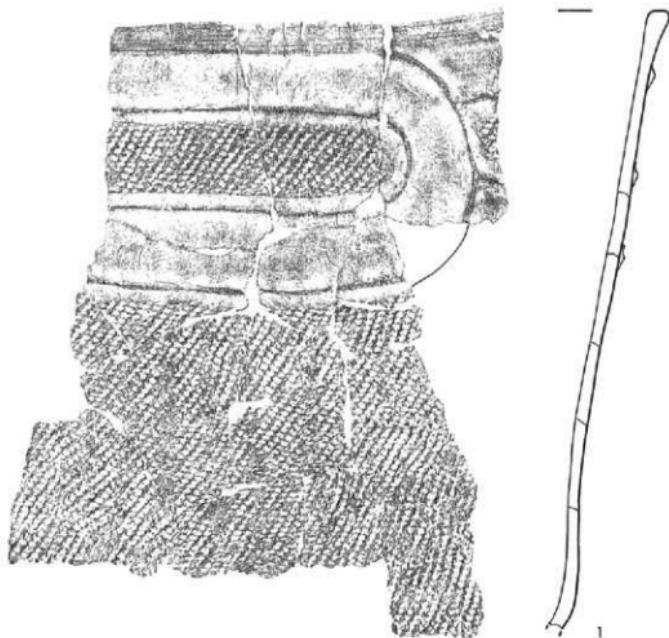
第29図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (17)



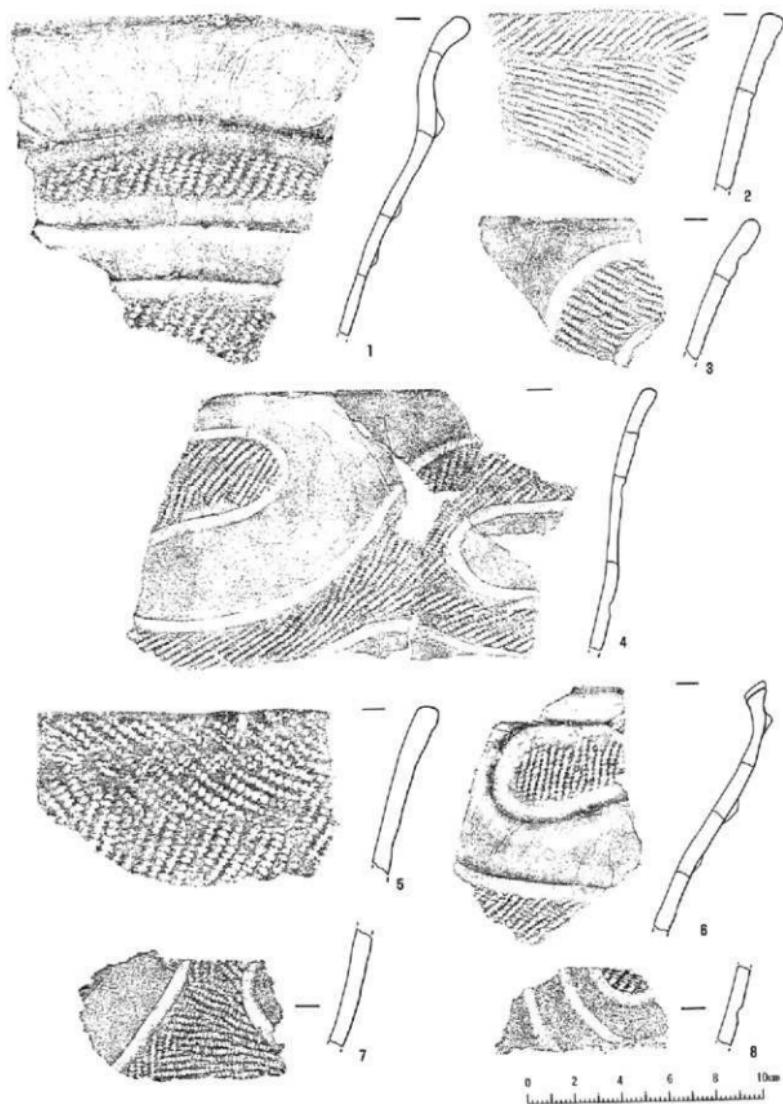
第30図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (18)



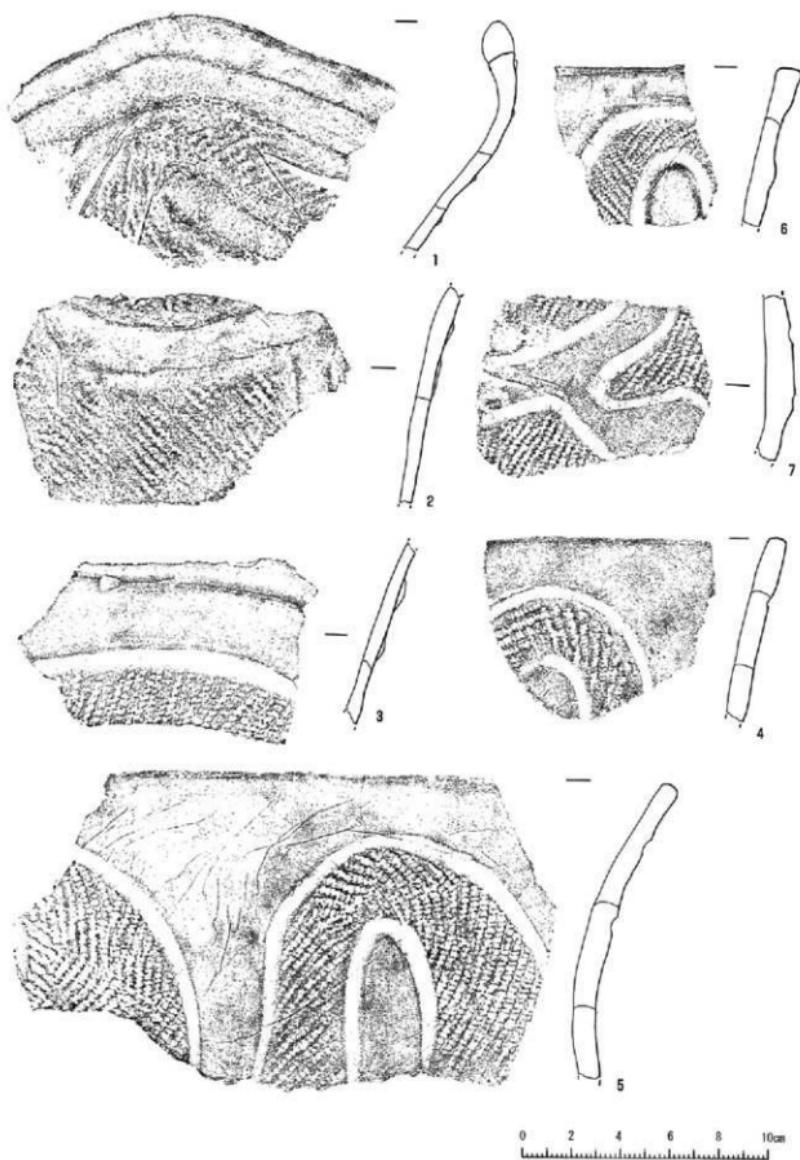
第31図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (19)



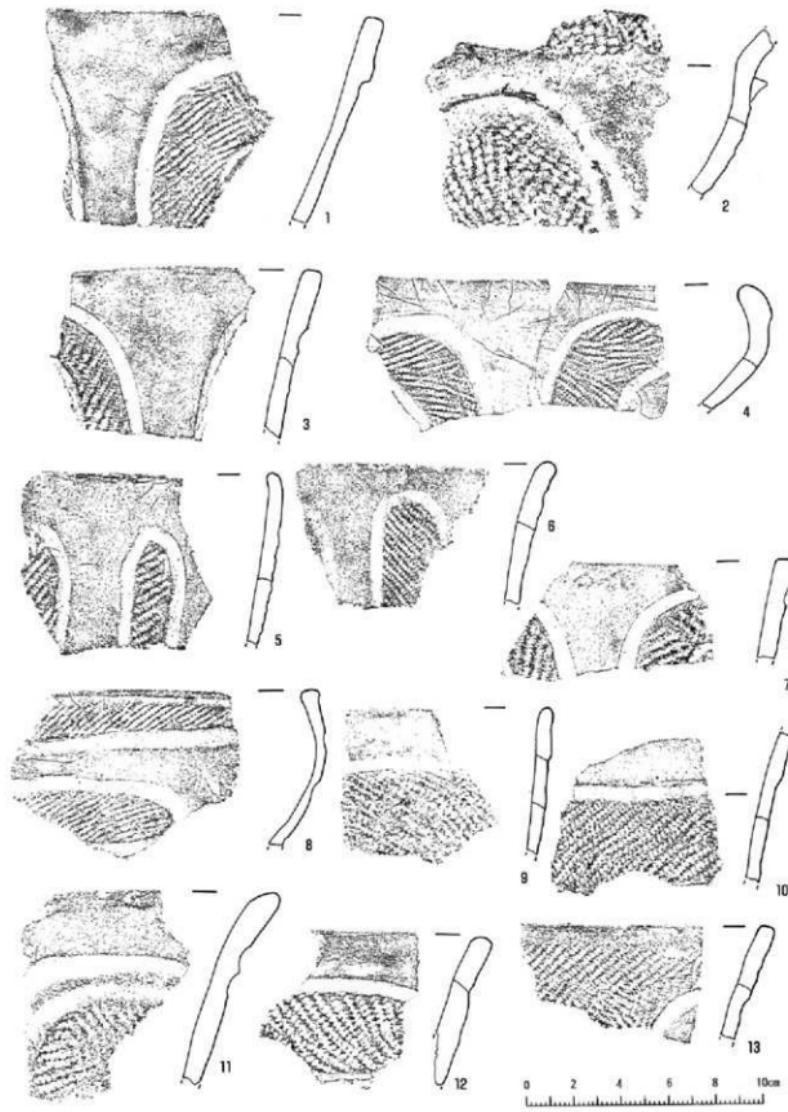
— 44 —



第33図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (21)



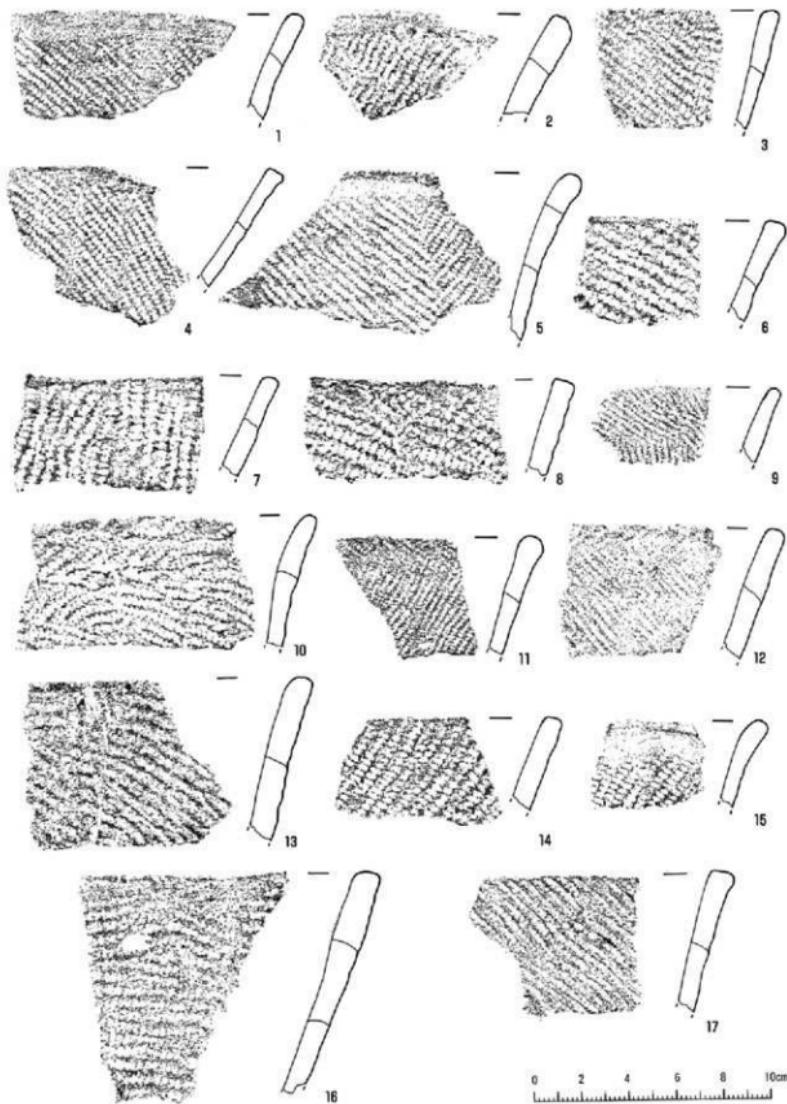
第34図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (22)



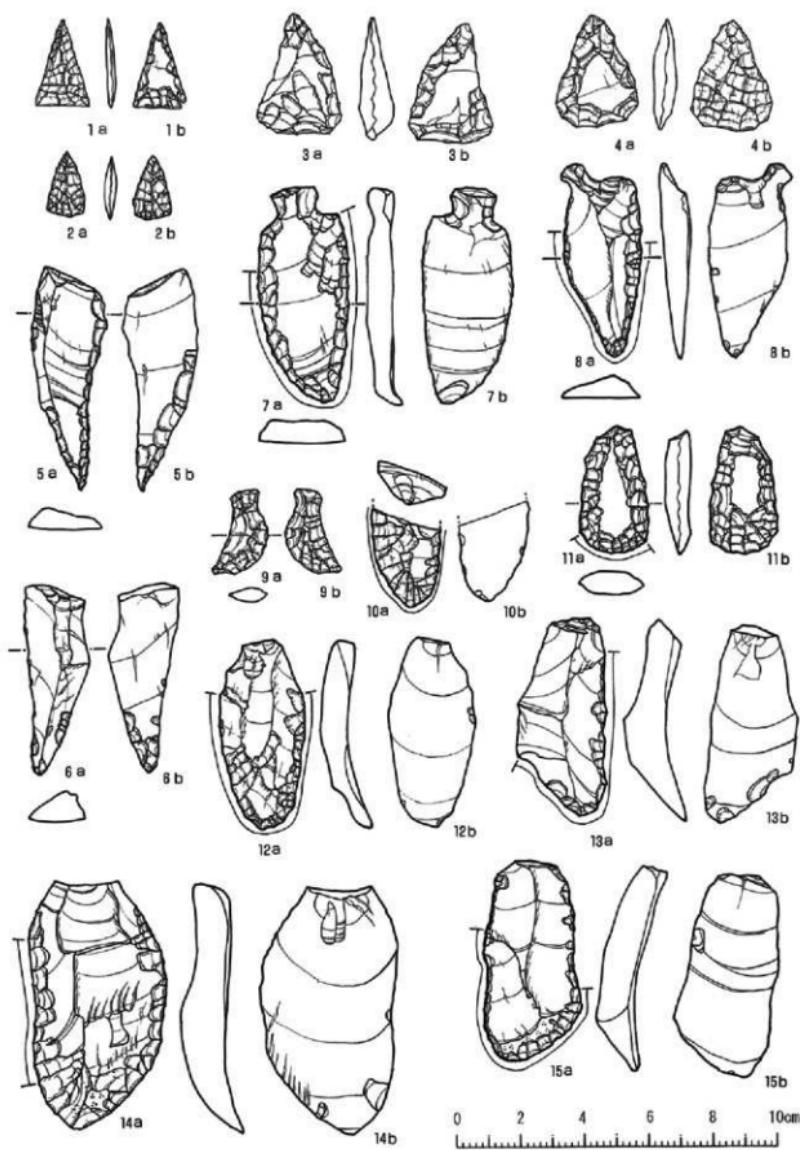
第35図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (23)



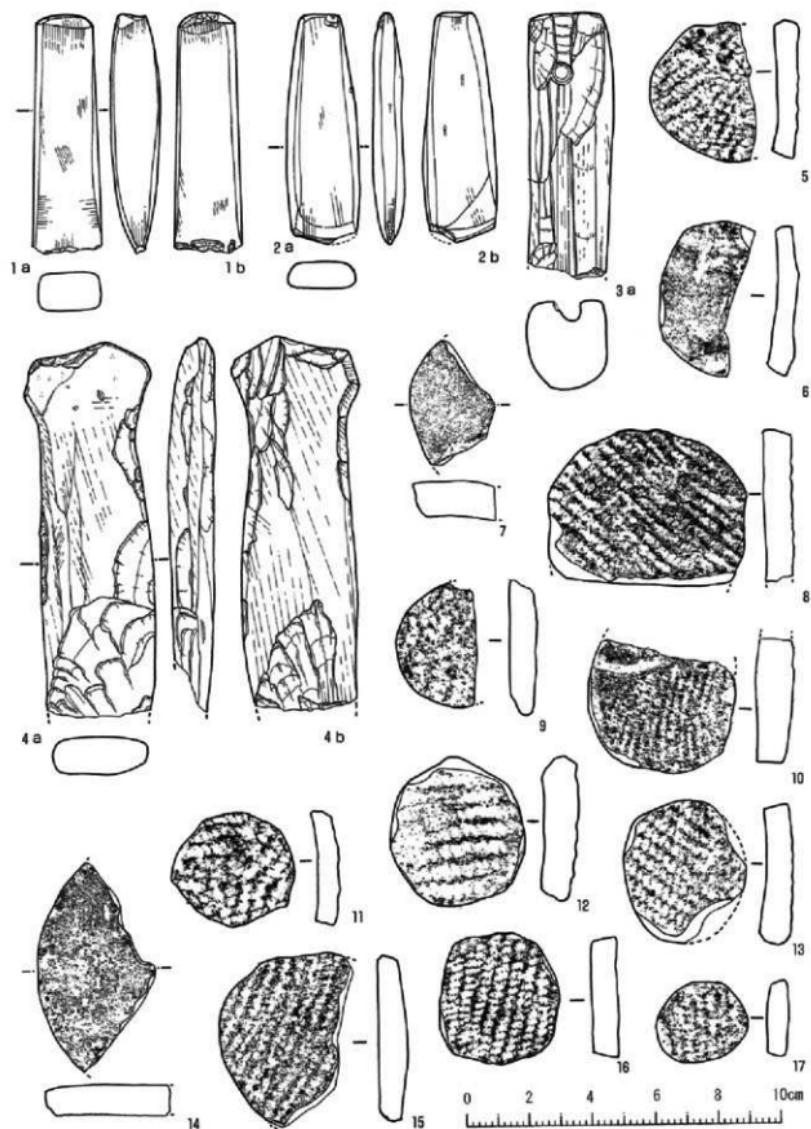
第36図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (24)



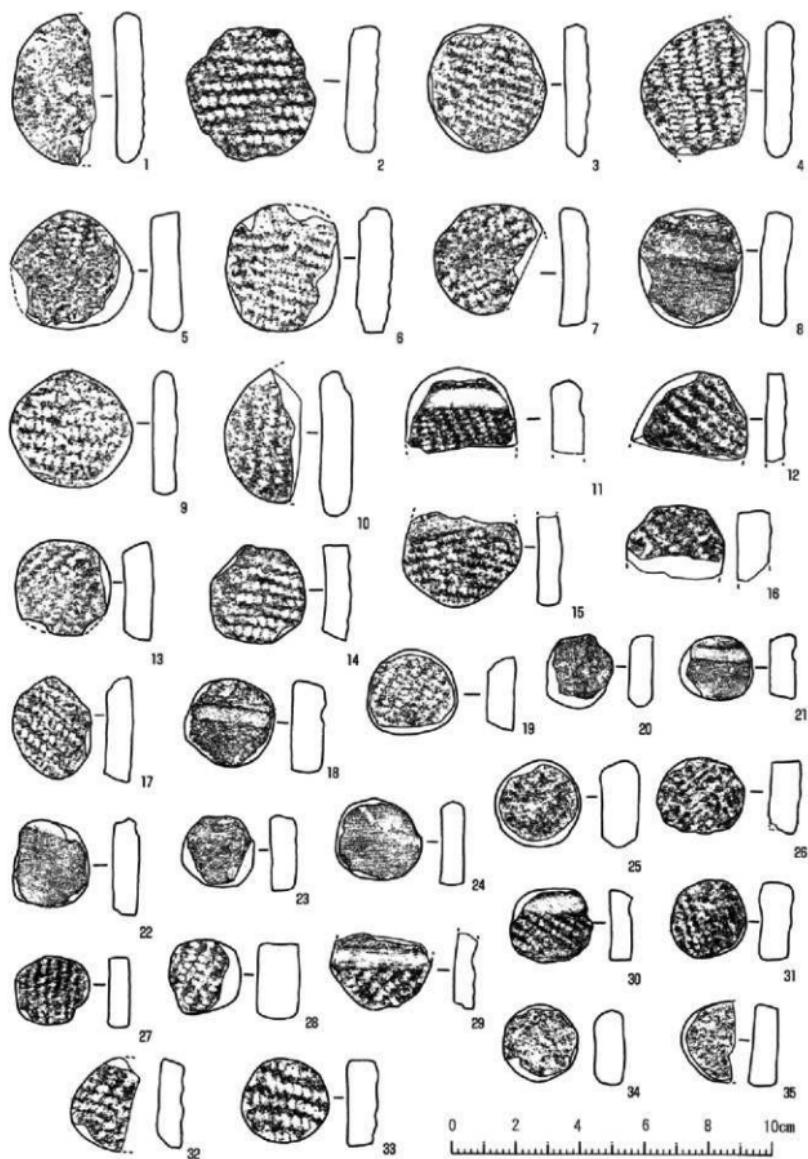
第37図 花沢A遺跡出土土器拓影図 (25)



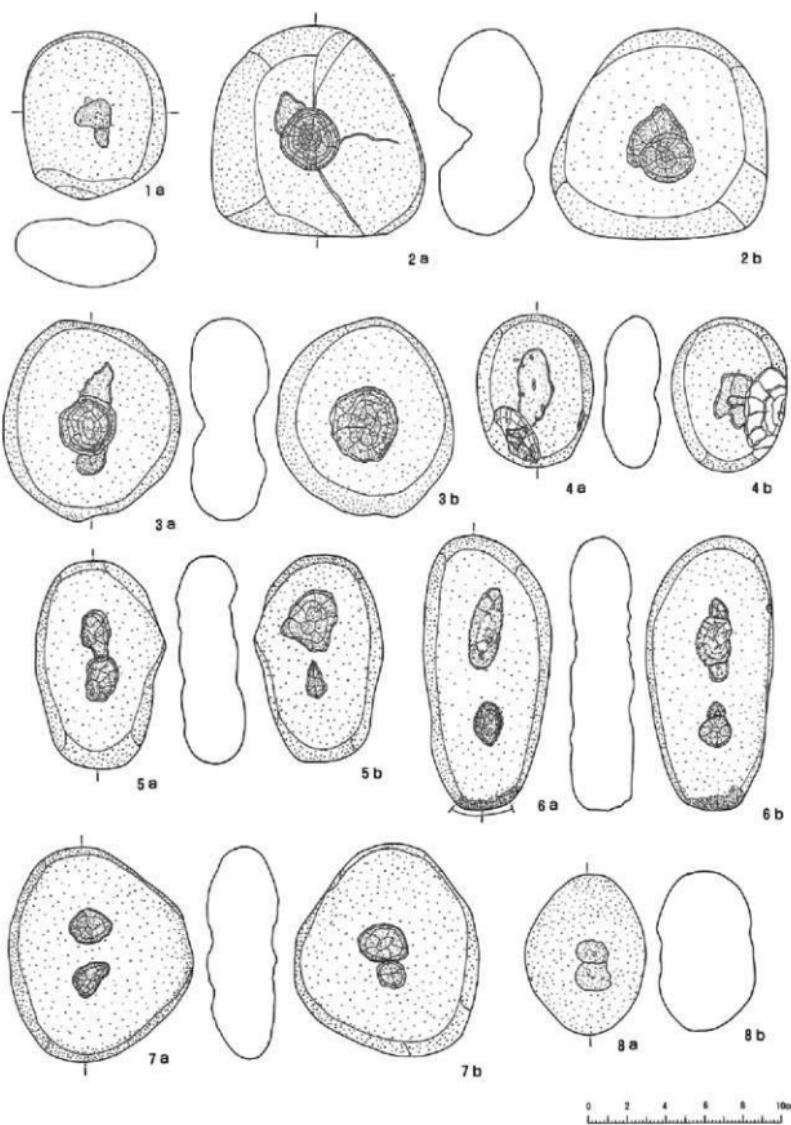
第38図 花沢A遺跡出土石器実測図 (26)



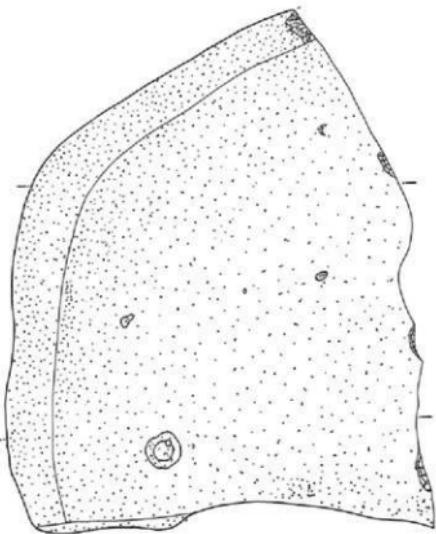
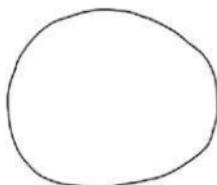
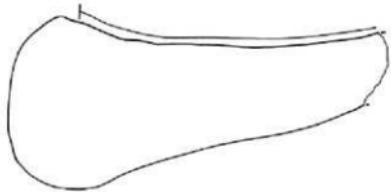
第39図 花沢A遺跡出土石器、石製品実測図、円盤形土製品拓影図 (27)



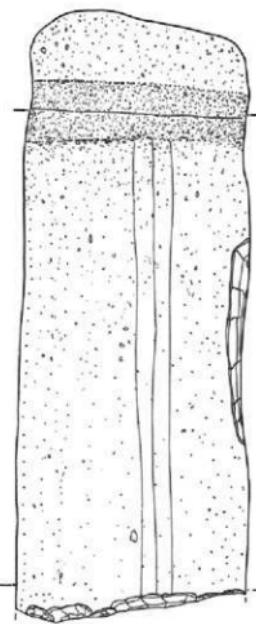
第40図 花沢A遺跡出土円盤形土製品拓影図 (28)



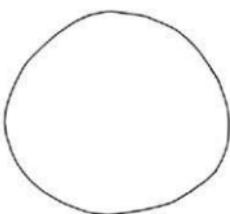
第41図 花沢A遺跡出土敲石実測図 (29)



1a



2a



0 2 4 6 8 10cm

第42図 花沢A遺跡出土石皿、石棒実測図 (30)

V まとめ

今回の調査区から検出した遺構群は、竪穴住居跡を中心に構築されたものであり、花沢A遺跡のなかでどのような位置づけになるのか検討を加えたい。

時期としては、出土土器から縄文時代中期末葉の大木10b式分類にされる土器群が中心をなすことが明かになった。竪穴住居跡は長径が3.4mの円形状に掘り込まれた小規模なものであり、また出土遺物は浅鉢土器に彩色したものや意図的に折られた石剣の出土から祭祀が行われた場所と考えられる。

掘立建物跡は、東西に張り出す形態である。床面に炉が存在しないことから推測すれば、竪穴住居跡と同様に祭祀を執り行う場所として位置付けたい。

土壙群も人工堆積を示すことや、副葬品と思われる遺物の出土は墓壙としての可能性が強く、形態の違いは成人や子供の埋葬によるものと解釈される。また、幼児用の墓壙と考えられる埋設も整然とならんでおり、これらを総合すると今回の調査区は花沢A遺跡における墓制地域と言える。

ちなみに、昭和62年度の試掘調査では竪穴住居跡を2棟確認しており、北方に集落が広がると考えられる。

次にこの時期に特徴的な複式炉について検討したい。

第43・44図に示したのは、石組炉、土器埋設石組炉を設置した竪穴住居跡の平面図である。第43図の台ノ上遺跡H Y41・50の2棟の竪穴住居跡の炉は石組の形態であり、特にH Y41は馬蹄形で、土器埋設石組複式炉に発展する前段階として注目される。

時期は出土土器から縄文時代中期中葉の大木8b式併行である。同図の大清水遺跡の二重土器埋設石組複式炉は、今回の竪穴住居跡よりも先行する大木9b式に分類される。大塚山遺跡の竪穴住居跡は、石組みを多用する形態で複節縄文を施文しており、花沢A遺跡と同様な時期である。

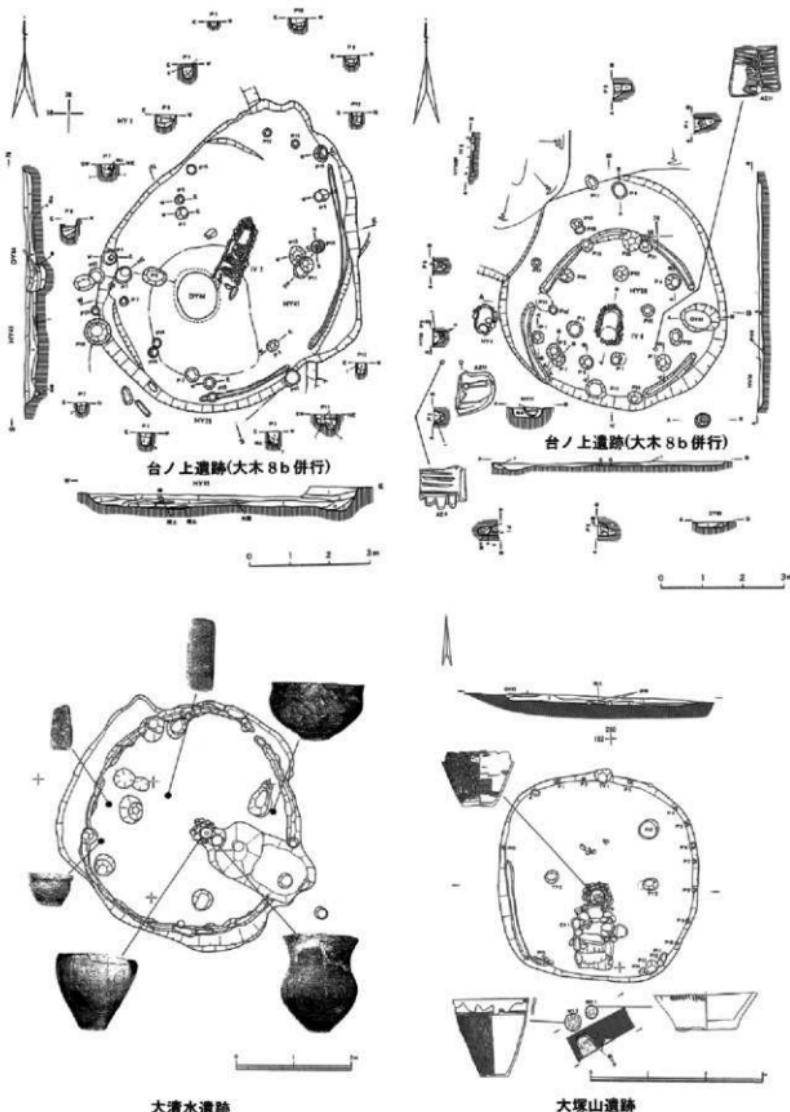
第44図は米沢市小野川温泉の西方に位置する塔之原遺跡の竪穴住居跡であり、重複関係から土器埋設複式炉が大型になっていく様相が伺える。出土土器については、第47図に示した。これらの土器群は、稜線文や隆帶文によって構成されるもので、大木10b式に分類される。昭和62年の試掘によって確認したのが第44図の2棟である。

南方に埋設土器を配置しており、第46図に示した。今回の土器群よりもやや先行する文様であるが、共存する土器群の多くは大木10b式である。

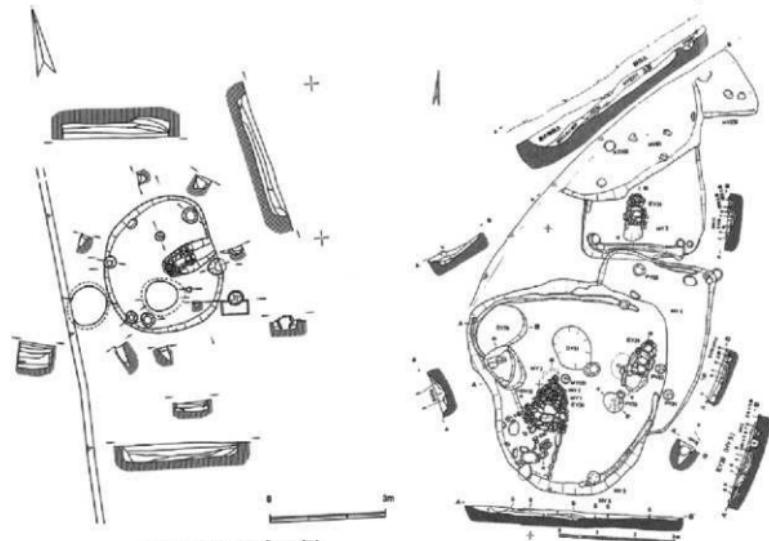
以上述べたように、複式炉には多数の形態があり、これらが終焉を迎えるのは中期末葉と考えられている。このようなことから、今回検出した炉の形態は複式炉の最終形態のひとつと考えられる。

次に遺物について検討を加えたい。土器としては、埋設土器を中心として復元することができた。しかし、文様構成が把握できた土器は僅かに2点だけであった。これは、以前に烟であったことから、口縁部が壊されてしまったことによる。

この時期の土器は、口縁部に文様が描かれるのが多く、結果として下部の縄文だけの土器

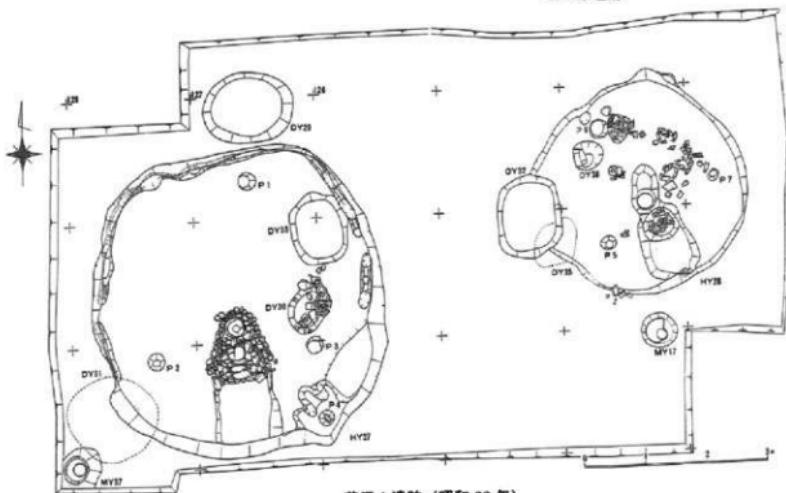


第43図 繩文時代中期中葉～末葉の竪穴住居跡平面図



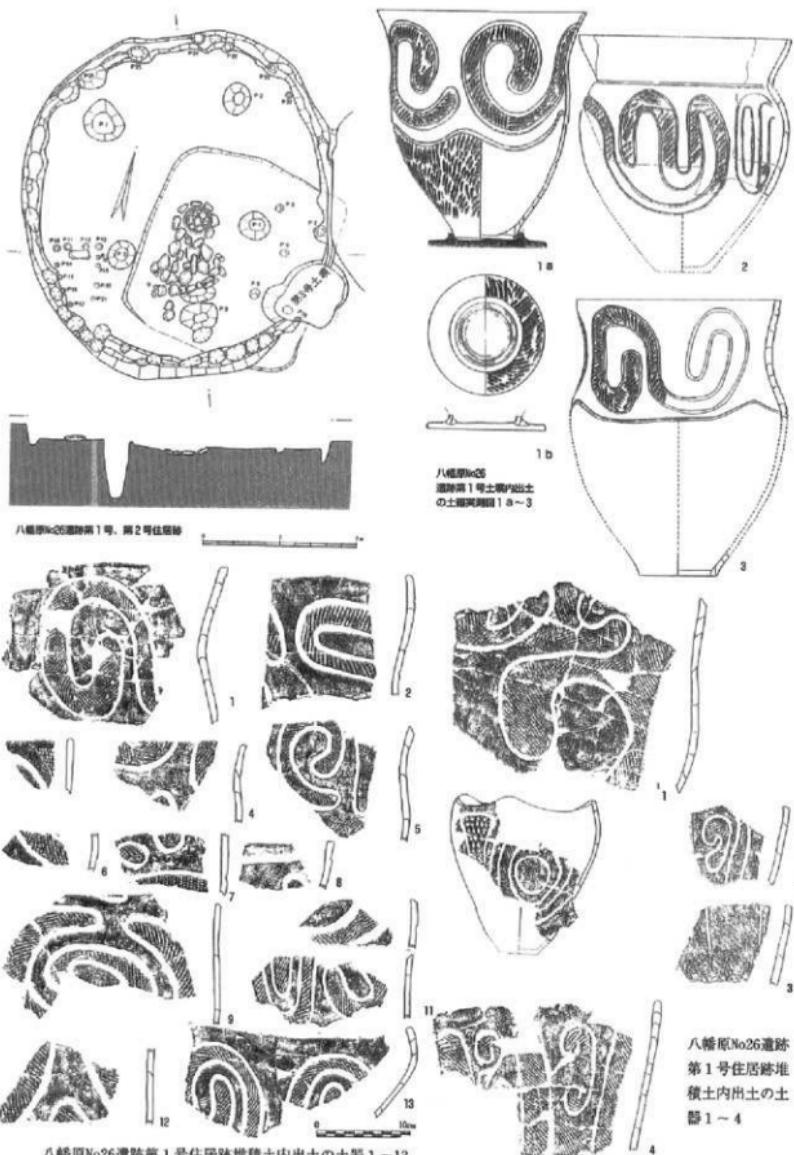
花沢A遺跡（平成 18 年）

塔之原遺跡

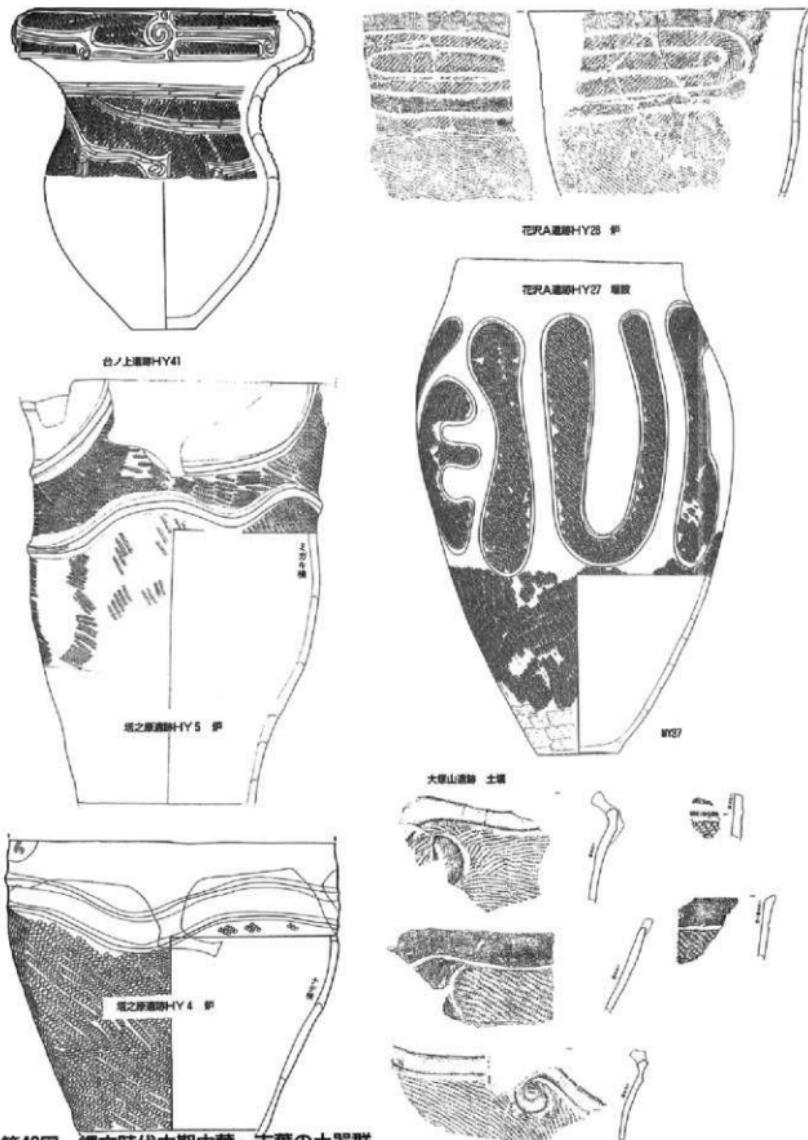


花沢A遺跡（昭和 62 年）

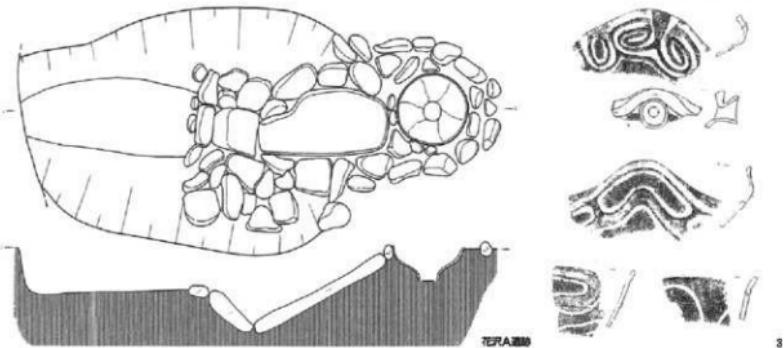
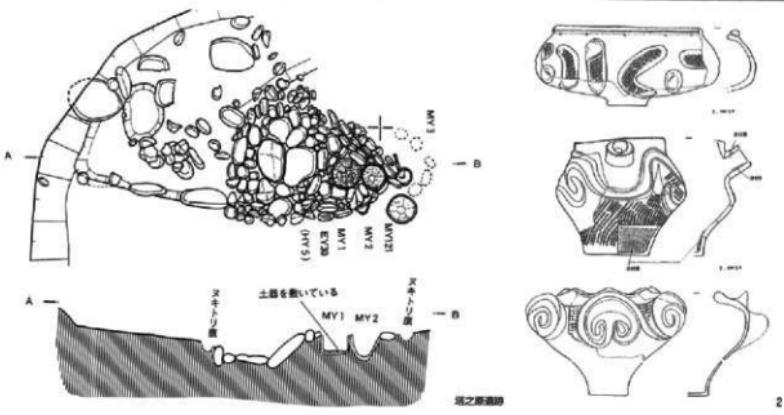
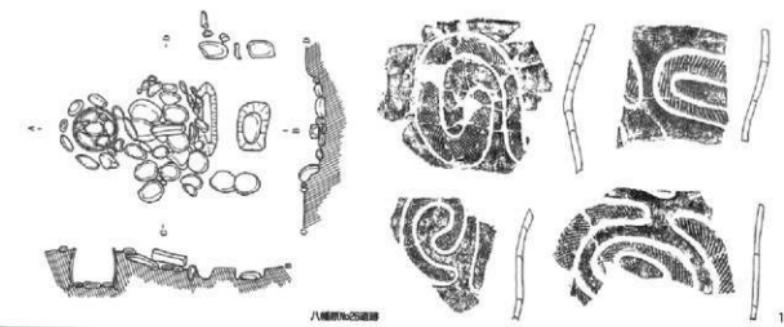
第44図 縄文時代中期末葉の竪穴住居跡平面図



第45図 縄文時代中期末葉の土器群



第46図 縄文時代中期中葉～末葉の土器群



第47図 土器埋設石組複式炉平面図

が出土したことによる。さらに、粗製土器が多いこともあげられる。

石器は出土数が少ないので、前に述べたように今回の調査区が生活の場ではないことに要因があると考えられる。

土偶の出土は、認められなかつたが、台付土器や彩色した浅鉢土器、注口土器等は祭祀に関係する遺物として注目される。

最後に、今回の調査にたいして便宜をはかっていただいたライフステージ東北株式会社及びご協力を賜った地元の方々に対して心から感謝申し上げます。

参考文献

- | | |
|---------------|-----------------------------------------------|
| 1975 米沢市教育委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第1～3集 米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内の遺跡群 |
| 1988 米沢市教育委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第23集 遺跡詳細分布調査報告書第1集 |
| 1994 米沢市教育委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第43集 塔之原遺跡発掘調査報告書 |
| 1999 米沢市教育委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第62集 大樽遺跡第2・3次発掘調査報告書 |

報告書抄録

| ふりがな | はなざわ いせき | | | | | | | |
|-----------|----------------------------------------------|------|------------------------|-------------------|-------------------|--------------------------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 書名 | 花沢A遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第91集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 菊地政信 | | | | | | | |
| 編集機関 | 米沢市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒992-0012山形県米沢市金池三丁目1-55号 TEL (0238) 22-5111 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2007年3月31日 | | | | | | | |
| 所収 遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査 期間 | 調査 面積 m ² | 調査 原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 花沢A | 山形県 米沢市 駅前三丁 目2473番地 13 | 6202 | 米沢市 遺跡番号 E-252 | 37度 56分 00秒 | 140度 7分 30秒 | 20060531 ～ 20060630 | 1,470 | 集合住宅 建設に伴 う緊急発 掘調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 花沢A | 集落跡 | 縄文時代 | 竪穴住居跡 掘立柱建物跡 墓壙群 | 縄文土器 | | 縄文時代中期末葉 に併行する竪穴住 居跡1棟と墓壙群 を確認した。 | | |

写 真 図 版

第一図版 花沢A遺跡の発掘（一）



▲ 発掘全景（北東から望む）



▲ 発掘全景（南方から望む）

第二回版 花沢A遺跡の発掘(II)



▲ 発掘全景（南東から望む）



▲ HY 1の調査状況（南方から望む）



▲ 調査区全景（南方から望む）



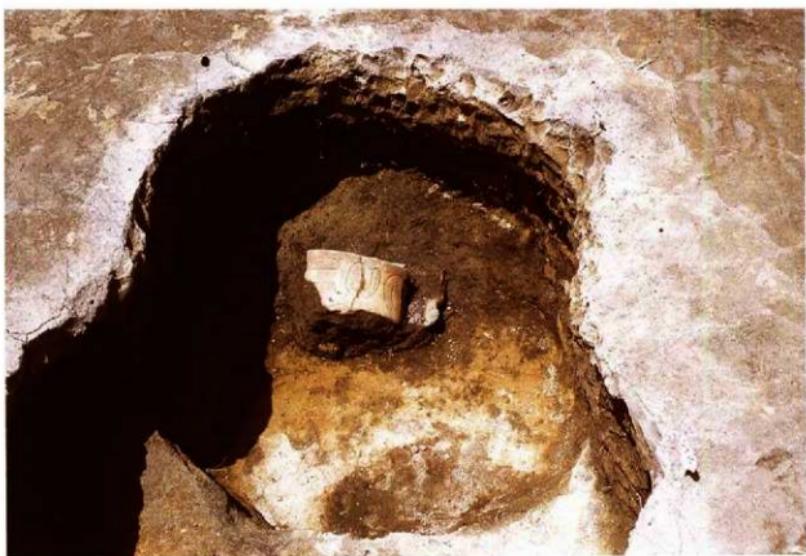
▲ NW区全景（南西から望む）



▲ D-Yプラン確認状況



▲ NE区プラン確認状況（南西から望む）



▲ DY24遺物出土状況（南方から望む）



▲ 石剣出土状況